『言語情報学研究報告』No.4（2004）

アラビア語－正則アラビア語及びエジプト方言[1]－

榮谷　温子
（東京外国語大学非常勤講師）

1. アラビア語の使用地域と人口

我々が普段「アラビア語」と呼ぶ言語は，厳密には北アラビア語である。これと別に，南アラビア語と呼ばれる別言語がある。以下，本稿では，北アラビア語を指して，単に「アラビア語」と呼ぶ。

アラビア語を第1言語とする話者人口は確定できないが，1億5000万人(Versteegh 1997: vii) とも2億人(Bateson 2003: xii, Holes 1995: 1) ともいわれている。

主要な使用地域は，アラビア半島から北アフリカにかけての中東地域であるが，サハラ以南アフリカや中央アジアでもアラビア語方言が話される。ヨーロッパ，南北アメリカ，オーストラリアなどにも，アラビア語話者が移住している。また，アラビア語を話すのはアラブ人だけではなく，エジプトのヌビア人や，マグレブ地方のベルベル人など，非アラブのアラビア語話者も存在する。

参考までに，アラブ連盟加盟国（パレスチナ[2]を含む）とイスラエルの人口を，外務省HP（2004年3月16日現在）のデータに基づき，次頁に掲げる（図表1-1）。連盟加盟国の総人口は，2億人を大幅に超える[3]が，加盟国国民全員がアラビア語話者とは限らない。例えば，スーダンはアラビア語を公用語としているが，その南部地域ではアラビア語は少数言語となる (Owens, 2000: 8-9)。

他方，第1言語以外の話者の存在も無視できない。非アラブ諸国のイスラーム教徒が，イスラームという宗教と密接に結びついた言語であるアラビア語を，母語並みに習得しているケースは，決して珍しくない。また，例えば，チャドのアラビア語の母語話者は，人口の8%程度に過ぎないが，アラビア語を民族間の共通語として用いる人は40%に達する(Owens, 2000: 9)。

参考文献

Bateson, M.C. (2003) :*Arabic language handbook*, Washington, D.C., Georgetown University Press.（1967年刊の再刊）
外務省:『外務省ホームページ』
「各国情報　中東」 http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/middleeast.html
「各国情報　アフリカ」 http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/africa.html
Holes, C. (1995) : *Modern Arabic: Structures, functions, and varieties*, London/ New York, Longman.
Owens, J. (2000) : *Arabic as a minority language*, Berlin / New York, Mouton de Gruyter.
Versteegh, K. (1997) : *The Arabic language*, New York, Columbia University Press.

---

[1] 監修者　ロバート・ラトクリフ東京外国語大学助教授。
[2] アラブ連盟内では「国」として認められている。
[3] 調査年がまちまちだが，表の人口（イスラエルを含む，イラクを除く）を単純に足し合わせると，2億8700万人を超える。

	国名	人口(万人)	調査年, 民族の内訳, 等
中東	アラブ首長国連邦	375 .4	2002 年
	イエメン	1,767	2000 年, 政府統計資料
	イスラエル	644	2001 年 ユダヤ人 81.2%, アラブ人他 18.8%
	イラク	(改訂作業中)	
	オマーン	233	1999 年, 開発省。うちオマーン人は 173 万人(74%)
	カタール	約 62 .1	2002 年 カタール中央銀行推定
	クウェート	242	2002 年末。うちクウェイト人 90 万人(37%)
	サウジアラビア	2,200	うち外国人 580 万人
	シリア	1,800	2003 年推定。アラブ 85%, アルメニア人, クルド人, パレスチナ人
	バーレーン	69 .1	2000 年末現在
	ヨルダン	520	2002 年 パレスチナ人約 7 割, ベドウィン系ヨルダン人
	レバノン	400 .5	1997 年中央統計局
	パレスチナ	約 930	2002 年, パレスチナ中央統計局
アフリカ	アルジエリア	3,130	2002 年, アラブ人 80%, ベルベル人 19%, その他 1%
	エジプト	6,920	2003 年 1 月
	コモロ	58 .6	2002 年. バントウ族系黒人主流にアラブ人, マダガスカル人, インド人, アフリカ人等
	ジブチ	65 .65	2002 年 ソマリア系イッサ族 50%, エチオピア系アファール族 37%
	スーダン	3,700	2002 年推定, アラブ系 40%, アフリカ系 31%, ベジャ族 7%
	ソマリア	940	2002 年, 世銀。ソマリ族(ただし, 多数の氏族に分かれる)
	チュニジア	945 .59	1999 年, チュニジア統計局。アラブ人 98%, その他 2%
	モーリタニア	270	2000 年, モール人(アラブとベルベルとの混血, 全人口の 80% 程), アフリカ系など
	モロッコ	2870	2000 年, アラブ人 65%, ベルベル人 35%
	リビア	560	2003 年推計, EIU

図表 1-1 中東・北アフリカ諸国の人口 (外務省ホームページによる)

2. アラビア語の規範・方言概略

2.1 アラビア語とダイグロシア

2.1.1 ダイグロシア

アラビア語社会では, 文語あるいは古典アラビア語などとも呼ばれる正則アラビア語と, 各地の方言である口語アラビア語の, 2 種類が使い分けられている, と言われる。実際には, そんな単純な話ではないのだが, まず, そうした認識のもとになった, Ferguson(1959)のダイグロシア(二言語

併用）論を紹介することとする。

Ferguson（1959）は，アラビア語社会では，上位変種である正則アラビア語と下位変種である口語アラビア語が，機能を分担して使い分けられていると説明した。すなわち，正則アラビア語は，モスクでの説教，書簡，議会等の演説，大学の講義，ニュース放送，新聞の社説等，詩歌に，口語アラビア語は，召使い等への指示，家族や友達との会話，ラジオのソープ・オペラ，風刺漫画のキャプション，民俗文学に用いられる，といった使い分けである。

威信という面から見れば，上位変種は下位変種よりも優位にあると考えられ，この感情が強い場合，下位変種は存在しないと見なされることすらある。例として，下位変種である口語アラビア語を何不自由なく操る話者に対して，「誰々はアラビア語ができない」などという言い方が，「彼は正則アラビア語を身に付けていない」という意味でなされることが挙げられている。

母語として自然に身に付く下位変種の口語アラビア語と違って，上位変種の正則アラビア語は教育を通して学習される。そのため，正則アラビア語は，高尚な印象のある反面，口語アラビア語に対して母語話者が持つような，くつろいだ感覚はない。正則アラビア語には，文法研究の強力な歴史があり，それが言語のゆれを一定限度内に抑えているが，口語アラビア語には，大きな地域差が見られる。

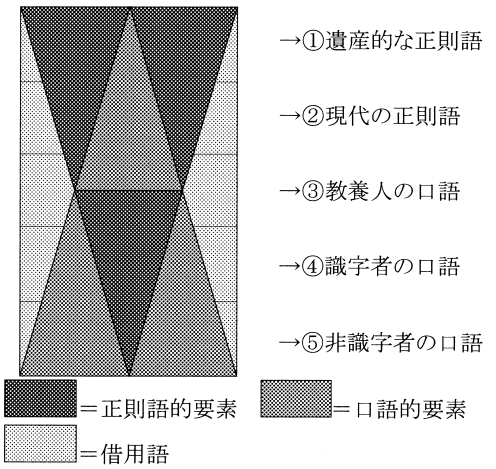
上位変種と下位変種を完全に分化したものと捉える反面，Ferguson 自身，この上位・下位両変種間の緊張関係の緩衝材として，中間言語が存在することにも，既に言及している。

2.1.2 トリグロシアから言語レベル論へ

その後，この中間言語について，緩衝材という補助的な役割でなく，上位変種と下位変種を連結するという，もっと積極的な役割を見出した考え方が出てくる。いわば，トリグロシア（三言語併用）論である。しかし，さらに研究が進み，アラビア語を上位・中間・下位の 3 変種という枠組みで捉える考え方もやはり，あまりに大雑把であることが明らかとなってきた。

現在では，言語レベル論という考え方が一般的である。これは，アラビア語を 3 つ乃至それ以上に分割するのではなく，ひとつの連続体としてとらえる考え方である。Badawi（1973）は，この連続体の中に，①遺産的な正則語，②現代の正則語，③教養人の口語，④識字者の口語，⑤非識字者の口語，の 5 つの層を設定し，各レベルの特性は，正則語と口語という主要要素に，借用語という副次的要素を，異なる割合で混合したものだとして，図表 2-1 のようなモデルを提示した。

なお，このモデルは，アラビア語を 5 等分した五言語併用論では，決して，ない。この 5 レベルの間にまた別のレベルを設定する



図表 2-1 言語レベルのモデル図

ことも可能であり，言語レベルは無数に設定できるが，全体像の説明のために，大きく 5 つのレベルを設定したということだ。

例えば，「②現代の正則語」は，近代的な生活に結びついたニュース番組や政治評論など，「①遺産的な正則語」（近現代の文明に影響されない伝統的な正則語）よりずっと広範囲で用いられるレベルであるが，このレベルだと，口語的な要素が少し入り込み，借用語の割合も少し増える。

これに対して，「③教養人の口語」は，正則語と近代文明に影響された口語で，口語でありながら正則語がかなり入り込み，借用語も多い，非常に柔軟な言語レベルである。科学，政治，社会，芸術などの話題を論ずる場合に使われる。同じ口語でも，「④識字者の口語」というのは，ある程度の教育のある人々が，日常生活で使うレベルで，正則語や借用語の割合がかなり減る。

2.1.3 言語レベルにおける各要素の混合の実例

各言語レベルの特性は，「正則語と口語という主要要素に，借用語という副次的要素を，異なる割合で混合したもの」と述べたが，各要素の混合は，決して無作為に行なわれるものではない。

正則語の要素と口語の要素との混合について，Hary（1996）に基づいて，具体的に説明する。例として挙げられているのは，「私は彼を見た」という文である。これを，正則語的な要素だけで言い表せば，**/raʔaituhu/**，口語的要素のみを用いると，**/ʃuftu/** となる。これらを両極として，様様なレベルの形式を調査するため，Hary（1996）は，変数として，以下の 4 つを設定した。

①語彙：「見る」という動詞の違い。正則語レベルでは **/raʔaː/** であるが，口語レベルでは **/ʃaːf/** という語を使う。（**/raʔaitu/** と **/ʃuft/** はこれらの完了形 1 人称単数形。）

②二重母音：正則語レベルの **/ai/ /au/** は，口語レベルで **/eː/ /oː/** と発音される傾向がある。すなわち，**/raʔai-/** に対し，口語的な **/raʔeː-/** という発音が考えられる。

③動詞の活用語尾：完了形 1 人称単数形の語尾が，正則語レベルでは **/-tu/** となるのに対して，口語レベルでは **/-t/** となる。

④非分離形代名詞：3 人称男性単数の斜格（対格と属格）形が，正則語レベルでは **/-hu/** となるのに対して，口語レベルでは **/-u/** となる。

以上を踏まえれば，理論的には，*/**raʔai-t-hu/**, */**raʔeː-tu-hu/**, */**ʃuf-tu-hu/**（形態素の区切れ目をハイフンで示した）など，計 12 通りの形式が想定される。だが，インフォーマントたちに容認されたのは，**/raʔai-tu-hu/, /raʔai-t-u/, /raʔeː-t-u/, /ʃuf-t-u/** の 4 形式のみであった[4]。

この調査で明らかとなったのは，まず，口語レベルの語彙，及び口語レベルと見なされる形式と，正則語レベルの接辞は共起しないことである。逆に，**/raʔai-t-u/** のように，正則語レベルの形式に口語レベルの接辞が付くのは容認される。*/**raʔeː-tu-hu/** は，実は容認されたのだが，これは

---

[4] ただし，**/raʔai-tuː/** >*/**raʔai-tu-u/**, **/raʔē-tuː/** >*/**raʔē-tu-u/**, **/ʃuf-tuː/** >*/**ʃuf-tu-u/** は，いずれも「私は彼を見た」の意味では不可であるが，「あなたたちは彼を見た」という意味でならば容認された。すなわち，語幹に，完了形 2 人称複数の語尾 **/-tuː/** と，3 人称男性単数の斜格（対格と属格）形 **/-Ø/**（Ø はゼロを表す）の付いた **/raʔai-tuː-Ø/, /raʔē-tuː-Ø/, /ʃuf-tuː-Ø/** だと解釈された場合である。

/**eː**/ という長母音を，/**ai**/ という二重母音と聞き間違えたためであることが明らかとなっている。

このように，正則語レベルと口語レベルを判別する変数のひとつであった二重母音は，この調査では，知覚にあまり影響せず，正則語的要素とも口語的要素とも共起することが示された。

ある形式を正則語レベルであると知覚させる要素は，重要度の高いものから順に，(1) 語彙，(2) 非分離代名詞，(3) 動詞の活用語尾，(4) 二重母音，である。容認されなかった形式においても，例えば，*/**ʃuf-tu-hu**/ は，*/**ʃuf-t-hu**/ より正則語的な響きが感じられるなど，当初想定された 12 の形式が，この重要度に従って，/**raʔaituhu**/ ～/**ʃuftu**/ の間で連続的な序列をなすことが示された。

これは，短い単文についてだけの調査ではあるが，正則語と口語両要素の混合は，決して無作為なツギハギの状態ではなく，そこに一定の法則のあることが示されたといえる。アラビア語という連続体において，正則語的レベルから口語的レベルへ（あるいはその逆）という言語レベル間の移動には，一定の秩序が存在するのである。

以上のようなアラビア語の言語レベルについて，Bakalla (1984) は，スペクトログロシアという用語を提唱している。アラビア語の中で，いろいろなレベルが虹のスペクトルのように連続している様を，うまく表した用語だと思われる。

参考文献

Badawi, El-S. (1973) : مستويات العربية المعاصرة في مصر: بحث في علاقة اللغة بالحضارة (『エジプトの現代アラビア語の諸レベル：言語の文明との関係についての研究』), Cairo, دار المعارف .

Bakalla, M. H. (1984) :*Arabic culture: through its language and literature,* London, Kegan Paul International Ltd..

Elgibali, A. (ed.) (1996) :*Understanding Arabic: Essays in contemporary Arabic Linguistics in Honor of El-Said Badawi*, Cairo, The American University in Cairo Press.

Ferguson, C. A. (1959) :Diglossia. *Word, 15,* 325-340.

Hary, B. (1996) : The Importance of the Language Continuum in Arabic Multiglossia. In Elgibali, A. (ed.) *Understanding Arabic: Essays in contemporary Arabic Linguistics in Honor of El-Said Badawi*, 137-143. Cairo, The American University in Cairo Press.

榮谷温子. (1997) :「アラビア語ダイグロシア研究の現状」,『日本中東学会年報』 *12*, 329-363.

2.2 アラビア語の規範

2.2.1 正則アラビア語の成立

前項で述べたように，アラビア語には大きく分けて，正則アラビア語と口語アラビア語の 2 つの要素が含まれている。このうち，アラビア語の規範とされるのは，正則アラビア語である。本稿では，この正則アラビア語について解説する。正則アラビア語は，アラビア語でフスハー（الفصحى **/al-fusˤħaː/**「最も明白な，純粋な言語」）と呼ばれている。

正則アラビア語は，アラビア語のどの地域の方言とも異なる。つまり，ある有力な地域の方言が広まって共通語ができた，ということではない。恐らく，ジャーヒリーヤ時代（ジャーヒリーヤとは，アラビア語で，無知であるという意味）と呼ばれる前イスラーム時代，アラビア半島のネジド地方で，当時のベドウィンたちに使われていた東西の諸方言が融合し，部族間の共通語が形成されたの

ではないか，と考えられている。そして，その共通語が，アラブ定型詩の言語，すなわち詩的コイネーとして定着し，詩とともにアラビア半島全体に広まったのである。

正則アラビア語の語彙や表現の豊かさは，このような，複数の方言の混成という成立事情に由来するものといえるだろう。

そして，イスラームが興り，聖典コーランがこの詩的コイネーで下されるに至ると，詩的コイネーは，イスラームという宗教と強力に結びつくことになる。

正則アラビア語の特徴のひとつは，イウラーブと呼ばれる，名詞の格変化や動詞の法の区別（語尾変化）の厳格さである。このイウラーブを間違えずに，詩をきちんと朗誦できるのは，専門の訓練を受けた朗誦者（ラーウィー）に限られていた。ベドウィンたちは，その昔，口語においてさえも，イウラーブを守っていたといわれているが，いつしかそれも失われてしまった。いつ，ベドウィンの口語からイウラーブが消えたのか，はっきり断定はできないが，遅くとも，イスラーム帝国による征服活動が行なわれる頃には，彼らの口語からイウラーブはなくなった，またはせいぜいオプショナルな要素として残るのみとなったものと考えられる。

2.2.2 正則アラビア語の保持とそのレベルの分化

イスラームの拡大と征服が始まったときには，イウラーブのみならず，語彙や発音その他さまざまな面で，正則アラビア語の誤りが蔓延してくるようになった。アラブ人が異文化や外国語に影響されたということもあるが，イスラーム帝国に征服された異民族たちの話すアラビア語は，やはりイウラーブなどの間違いが多くならざるを得なかった。また，外来語も大量に流入してきた。

正則アラビア語の規範は，ジャーヒリーヤ時代の定型詩と，聖典コーランである。この聖典コーランの言語を守るため，文法学が盛んになった。急激な語彙の変化に対して，辞書学も発展した。こうして，正則アラビア語は，激しい変化を生ずることなく，口語と乖離しながらも，死語とならずに，アラビア語の新しい言語レベルを形作っていったのである。

さらに，近代に入ると，アラビア語社会は，ヨーロッパ文明やヨーロッパの諸言語の影響を受け，さらに新しい言語レベルが分化していった。

正則アラビア語という言語レベルは，「文語アラビア語」とか「古典アラビア語」などと呼ばれることもある。そうした名称は，正則アラビア語の書き言葉としての側面，ジャーヒリーヤ時代から受け継がれてきた言語という側面を表すものである。しかしその反面，現在でも生きたことばとして使われる正則アラビア語の実態を，正しく表しているとはいえないと思われる。

それに，「古典」の正則アラビア語と，現代の正則アラビア語では，実は，さまざまな違いのあることが明らかになっている。わかりやすい例を挙げれば，語彙である。飛行機や自動車，テレビ，コンピューターなど，ジャーヒリーヤ時代やコーランの下った頃には考えられなかった事物を指すための語が，現在のアラビア語には存在するわけだし，ヨーロッパ言語からの外来語や借用表現も増えている。Bateson（2003:91）が，翻訳借用の例をいくつか挙げている：

the Cold War = الحرب الباردة **/al-ħarbu-l-baːridah/,** to kill the time = قتل الوقت **/qatala-l-waqta/,**
to play a role = لعب دورًا **/laʕiba dauran/,** there is/are … = … هناك **/hunaːka/** など。

基本的には変わらないと言われている文法面でも，例えば，正則アラビア語の条件文に関して，古典期から現代にかけての文学作品を分析し，条件詞の使い分けや条件節・帰結節内での動詞の形式等の通時的な変化を明らかにした，森口(2001)の研究がある。

2.2.3 正則アラビア語的レベルの位置

確認しておきたいのは，正則アラビア語は，決して母語として獲得される言語レベルではないことだ。正則アラビア語は，教育を受け学習して身に付けなければならない。アラビア語の母語話者であっても，正則アラビア語を正しく習得しているとは限らない。Parkinson(1993, 1996)は，成人のエジプト人の正則アラビア語能力を学歴別に調査した。そして，高学歴者であっても，アラビア語教師や記者等，大学でアラビア語を特に学んだという人の方が，そうでない人よりも正則アラビア語の能力が高いことや，アラビア語を大学で学んだ人々でもなお，高確率で間違いを犯す文法項目のあることなどを報告している。

加えて，正則アラビア語的なレベルが，必ずしもプレスティージの高い，すなわち威信的なレベルであるとは限らない。確かに，正則アラビア語はアラビア語の規範とされてはいるが，例えば，Schmidt(1986)は，カイロの口語での格式ある話し方というのは，正則アラビア語とも異なる，上流階級の話し言葉だったと述べている。Kassem(1996)は，アレキサンドリア方言で，教育のあるレベルの人々や女性たちが，強調音を弱く発音する，あるいは発音しないことを好むという，非正則語的な傾向を指摘している。Ibrahim(1986)も，威信的な発話と正則語とを区別する必要性を主張している。

参考文献

Badawi, El-S. (1973) : مستويات العربية المعاصرة في مصر: بحث في علاقة اللغة بالحضارة (『エジプトの現代アラビア語の諸レベル：言語の文明との関係についての研究』), Cairo, دار المعارف .

Bateson, M.C. (2003) :*Arabic language handbook*, Washington, D.C., Georgetown University Press. (1967 年刊の再刊)

Eid, M. and Holes, C. (ed.) (1993) : *Perspectives on Arabic linguistics V*, Amsterdam / Philadelphia, John Benjamins Publishing Company.

Elgibali, A. (ed.) (1996) :*Understanding Arabic: Essays in contemporary Arabic Linguistics in Honor of El-Said Badawi*, Cairo, The American University in Cairo Press.

Holes, C. (1995) : *Modern Arabic: Structures, functions, and varieties*, London/ New York, Longman.

Ibrahim, M.H. (1986) :Standard and prestige language: A problem in Arabic sociolinguigstics. *Anthropological Linguistics, 28*, 115-126.

森口明美.(2001):「古典アラビア語における条件文の通辞的変化に関する試論」,『日本中東学会年報』*16*, 155-174.

榮谷温子.(1997) :「アラビア語ダイグロシア研究の現状」,『日本中東学会年報』*12*, 329-363.

Schmidt, R.W. (1986) :Applied sociolinguigstics: The case of Arabic as a second language. *Anthropological Linguistics, 28*, 55-72.

Parkinson, D. (1993) :Knowing Standard Arabic: Testing Egyptians' MSA Abilities. In Eid, M. and Holes, C. (ed.) *Perspectives on Arabic linguistics V*, 47-73. Amsterdam / Philadelphia, John Benjamins Publishing Company.

-----. (1996). Variability in Standard Arabic Grammar Skills. In Elgibali, A. (ed.) :*Understanding*

Arabic: Essays in contemporary Arabic Linguistics in Honor of El-Said Badawi, 91-101. Cairo, The American University in Cairo Press.
Versteegh, K. (1997) :*The Arabic language*, New York, Columbia University Press.
Wahba, K. M. (1996): Linguistic variation in Alexandrian Arabic: the feature of emphasis. In Elgibali, A. (ed.): *Understanding Arabic: Essays in contemporary Arabic Linguistics in Honor of El-Said Badawi*, 103-128. Cairo, The American University in Cairo Press.

2.3 アラビア語の方言

2.3.1 口語アラビア語とは何か

正則アラビア語は，アラビア語の規範であるが，では，口語アラビア語は間違った，崩れたアラビア語なのだろうか？口語アラビア語は，正則アラビア語の訛ったものに過ぎない，などと言われることすらある。しかし，既に述べたように，正則アラビア語は，そもそも一般的に話されたことはないので，それが訛ったり崩れたりしていくはずはない。

口語には口語の文法があり，まとまった体系をなしている。そして，アラブの人々は，日常，この口語を話して暮らしているのである。これを，正則アラビア語と異なるという理由だけで，間違っているとか劣っているとかいうのは誤りである。

それでは，口語アラビア語は，正則アラビア語とは別の言語と考えた方が良いのか？確かに，発音や文法，語彙などの面で，宗教番組で用いられるような正則アラビア語と，人々が日常生活で用いる口語アラビア語との間には，多くの違いがある。外国人がこの２つを学ぶとなると，良く似た二ヶ国語を学ぶくらいの覚悟が必要かもしれない。しかし，先に述べたように，それらは，実際には，アラビア語というひとつの言語の中のレベルの違いでしかないのである。

口語アラビア語の起源には，いくつかの説がある。高階(1988: 487)は，口語の成立に関する説を，以下の４つにまとめている:

1. <u>コイネー説</u>　イスラーム征服活動初期の駐屯地や都市で，アラビア半島出身兵士の部族方言が混淆して共通語(コイネー)が生まれ，それが各地の中心都市域で，下層言語の影響を受けつつ定住民方言となった。
2. <u>修正コイネー説</u>　全方言に単一の起源を想定するのは無理だとして，複数の中心地から周辺に広まったとするもの。
3. <u>定向変化説</u>　コイネー説の示す定住民方言の特徴の多くは遊牧民方言にも見出されるし，強大な言語的中心地も存在しなかったことから，諸方言の特徴は，一般的定向変化，方言の相互接触，正則語の影響等により，結果的に生じたとする。
4. <u>ピジン説</u>　イスラーム化に伴う非アラブのアラビア語習得に際してピジン化が起こり，さらにそのクレオール化が進む。正則語の影響下で，屈折の獲得や語彙の増加等の非クレオール化を経て，独立した方言が成立したとする。

口語はアラビア語でアーンミイヤ(العامّيّة /**alʔaːmmijja**/)と呼ばれる。一般的，通俗的な言語という意味を持つ。本項では，この口語レベルのアラビア語について述べる。

2.3.2 地理的区分

中野(1988:477-481)に，ただしマルタ方言については高階(1992: 179-181)に基づいて，アラビア語方言の地理的分布による分類と，各方言の，特に，音声・音韻面の特性を列挙する:

1) アラビア半島方言

a) 北東方言:さらに，北部ベドウィン方言，シャンマル方言，アナザ(オネイザ)・リヤド方言，湾岸方言に分けられる。

b) 北西方言:ヒジャーズ方言。メッカの方言はここに含まれる。

c) 南西方言:イエメン方言や，オマーン領のズファール方言。

d) 南東方言:オマーン方言。タンザニアのザンジバル島の方言も，ここに含まれる。

湾岸方言やイエメンのハドラマウト方言で，**/k/>/ts/, /tʃ/; /q/>/dz/; /dʒ/; /dʒ/>/j/** のような対応(/正則語/>/口語/，のように示す)が特有である。また，オマーンを含む半島東部の方言では，ペルシア語やウルドゥー語の借用語が多いが，そうした借用語で，**/p/**(アラビア語音素としては通常存在しない)が **/b/** に変化せずに保たれる例が見られる。

南西方言に属するダシーナ方言では，**/χ/ > /ʔ/** 一部は > **/q/** というアラム語に似た音変化が起こっている。また，**/dˤ/ > /ɮ/ , /ɬ/** という対応は，ここだけで見られる音で，**/dˤ/** のいちばん古い音形を示す証拠となっている。

また，喉音(**/h/, /ʔ/, /ħ/, /ʕ/, /χ/, /ʁ/**)を含む音節で，CaG>CGa の組替え(喉音をGで表す)が顕著である。 例:**/gahwa/ > /ghawa/**「コーヒー」

2) メソポタミア方言

イラクとシリア北西部とトルコ南西部。南側のバビロニア方言と北側のアナトリア方言に大別される。大部分で **/θ/, /ð/, /ðˤ/** が保たれるが，アナトリア方言の下位のシールト方言ではこれらが **/f/, /v/, /v̥/** に移行。この特異な現象はチュニス方言にも部分的に現れる。

3) シリア・パレスチナ方言

إمالة **/ʔimaːlah/** (**/a/, /aː/** が前舌化・狭母音化し **/i/, /iː/** に寄っていく現象)が見られ，**[ɑ], [ɑː]** という後ろ寄りの音と，**[æ], [æː]** あるいは **[ɛ], [ɛː]** という前寄りの音の2種類が，音素として存在する。 例) **/ʔɑːm/**「立ち上がる」:**/ʔæːm/**「出発する」

語末の閉音節内で短母音が長くなる特異な現象もある。例:**/qɑmħ/ > /ʔɑːmħ/**「小麦」

/i/, /u/ の，**/ə/** への弱化も目立つ。 また，**/k/ > /kʲ/**あるいは **/tʃ/** と，**/k/** の調音点が前に移る。

4) エジプト・スーダン方言

ここに，スーダン西部の方言は含まれない。まず，右の対応表のように，正則アラビア語の **/dʒ/** と **/q/** と，各方言での音の対応は様様である。

カイロ方言では，文末等，

正則アラビア語	/dʒ/	/q/
カイロ方言	/g/	/ʔ/
ハルツーム方言	/ɟ/	/g/
下エジプト方言	/dʒ/～/g/	/g/, /ʔ/, /q/
上エジプト方言	/dʒ/～/ɟ/～/d/	/g/

図表 2-2 正則語の /dʒ/, /q/ との音対応

休止の直前以外の場所で子音が2連続した場合，CCĭ のように末尾に母音を補うが，ハルツーム方言では，CiC や CuC のように，補助母音を2子音の間に入れる。

また，カイロ方言では母音の短化・脱落が際立っている。例えば，「書く」の能動分詞の女性単数形を比べると：正則アラビア語 /ˈ**kaːtiba/,** ハルツーム方言 /ˈ**kaːtba/,** カイロ方言 /ˈ**katba/** となる。（アクセントを ˈ で示す。）

5) マグレブ方言（北西アフリカ方言）

この方言では，正則アラビア語における短母音が，融合してしまっている例が多い。

短母音融合のタイプ	該当する方言
/a/, /i/ > **/ə/** ; **/u/** > **/o/**	タンジェ方言，カサブランカ方言，トレムセン方言
/i/, /u/ > **/ə/** ; **/a/**	モーリタニア方言，モザブ方言
/i/, /u/, /a/ > **/ə/**	ラバト方言，ジジェリ方言

図表 2-3 マグレブ方言の短母音融合のタイプ

/ai/ > **/eː/** > **/iː/** ; **/au/** > **/oː/** > **/uː/** の変化もごく普通に起き，その結果，**/ə/, /a/, /i/, /u/** となった母音組織は，ベルベル語のそれと完全に一致する。母音脱落の結果，CCVCC, CCCVC など，正則アラビア語では許されない子音連続もごく普通に起こり得る。

また，**/r/**：**/rˤ/** の対立が明瞭である。例）**/ʒra/**「彼は走った」：**/ʒrˤa/**「それが起こった」

6) マルタ方言（マルタ語）

マルタ共和国の公用語。古くはアラビア文字を用いて書かれ，現在ではローマ字を基にした正書法を持つ。

母音の音素は **/a/ /i/ /u/ /e/ /o/** の5つ。音長は，強勢の位置と音節構造により，2次的に決まる。 アラビア語の強調音は，マルタ語では失われているが，語源における強調音やその他喉音の有無は，隣り合う母音*/a/ に対応する a と ie **[iə]** の区別として残っている。**għ**（<***[ʕ], *[ʁ]**）に隣接する母音 a, e, o は，**għ** > Ø にもかかわらず咽頭音化する。

7) その他のアラビア語マイノリティー方言

（個々の音声・音韻面での特徴等については割愛。）

以上，中野（1988:477-481），高階（1992: 179-181）に基づいて，アラビア語方言の，地域別に見た音声・音韻面における特性を挙げてみた[5]。

ここで，エジプト方言の歴史的側面についても触れておきたい。池田（1985）によれば，イスラーム以前から，エジプトとアラブの間には通商や移民により接触があったが，アラビア語とエジプトの言語，すなわちコプト語[6]が本格的に接触し始めたのはイスラームのエジプト征服（640-1 年）からである。当初は，（1） イスラームへの改宗が強制されなかったこと，（2） 公文書の言語がコプト語とギリシア語であったこと，（3） コプトが行政の要職を占めていたこと，（4） アラブの人口がコプト

[5] このほか、遊牧民方言、農民方言、都市民方言という分類も可能。特に遊牧民方言は、広範囲で共通点が見られる。

[6] 古代エジプト語の最終段階。現在でもコプト教会すなわちエジプトのキリスト教正教会の典礼に用いられる。

のそれに比して少なかったこと等により，アラビア語とコプト語の間には，均衡状態が続いた。

ところが，その後，アラビア語化政策の推進，イスラーム教徒の要職への登用，コプトに対する課税の強化，それもあってイスラームへの改宗者が増大，またアラブ諸部族のエジプト移住が増加したことなどで，9 世紀初頭には，アラビア語が優位に立つようになり，11 世紀には，完全なアラビア語化がはかられたという。

2.3.3 社会的要因による差異

同じ地域のことばであっても，話者の性別や階層による違いが見られる。イラクを例に，いくつかの調査結果を紹介することとする。

まず，性差に関して，バスラの教養階層の男女の話し言葉を分析した Bakir(1986)は，男性の話し言葉の方が，女性よりも，より正則アラビア語に近いと結論付けている。その理由として，女性は家庭にいることが多く，外の社会のフォーマルな場面に遭遇する機会の少ないこと，さらに，男社会と女社会がはっきり分かれているため，女性は自らの女性らしさを保持するために，男性の領分に踏み込まないように勤めており，それが言語面にも現れること，などが挙げられている。

また，Abu-Haidar(1989)は，バグダードでの調査の結果として，男性と女性が同じ社会的恩典を享受している場合，男性よりは女性の方が，よりプレスティージの高い，すなわち威信的な話し方を好む，と報告している。女性の方が威信的な話し方を好むという傾向は，バグダードやその他アラビア語社会に限らず，一般的に見られる傾向でもある。

他方，宗教という要因も見逃せない。バグダードのイスラーム教徒，キリスト教徒，ユダヤ教徒の各コミュニティにおいて，別々の方言が用いられていることは，すでに Blanc(1964)によって明らかにされている。Abu-Haidar(1989: 473)は，バグダード中心部のアラビア語で，**sˤidq**「真実」という単語の発音に 5 つの異形があると述べている。その 5 つとは，教養ある層の用いる **[sˤidq],** 非イスラーム教徒が用いていたが，現在ではイスラーム教徒も用いるようになった **[sˤidiq],** イスラーム教徒がしばしば用いる **[sˤidug],** 老齢には達していない非識字者や半ば非識字といえるような人々の用いる **[sˤidig],** 少数の老齢の非識字者の用いる **[sˤigid]** である。

ただし，Wahba & Miller(1997: 284)は，エジプトでは，イスラーム教徒とコプト教徒の間で，宗教による方言の違いが見られるという報告はほとんどなく，それ以外の民族や宗教のコミュニティが異なる方言を話しているという報告も皆無と指摘する。単なる調査不足の可能性もあるが，エジプト社会の構成員たちが混ざり合ったため，実際に方言差がないということも十分考えられる。

参考文献

Abu-Haidar, F. (1989) :Are Iraqi women more prestige conscious than men?: Sex differentiation in Baghdadi Arabic. *Langugage in Society, 18*, 471-481.

Bakir, M. (1986) :Sex differences in the approximationa to Standard Arabic: A case study. *Anthropological Linguistics, 28*, 3-9.

Bateson, M.C. (2003) :*Arabic language handbook*, Washington, D.C., Georgetown University Press. (1967 年刊の再刊)

Blanc, H. (1964) :*Communal Dialects in Baghdad*, Cambridge, MA., Harvard University Press.

池田修.(1985) :「エジプトにおけるアラビア語の歴史」,『イスラム世界』 *23・24* (合併号), 1-15.
亀井孝, 河野六郎, 千野栄一(編著).(1988):『言語学大辞典 第 1 巻 世界言語編 上』,東京, 三省堂.
----- (編著).(1992):『言語学大辞典 第 4 巻 世界言語編 下-2』, 東京, 三省堂.
中野曉雄.(1988):「アラビア語諸方言」, 亀井ほか(編著):『言語学大辞典 第 1 巻 世界言語編 上』, 472-483. 東京, 三省堂 に所収。
榮谷温子.(1997):「アラビア語ダイグロシア研究の現状」,『日本中東学会年報』 *12*, 329-363.
高階美行.(1988) :「アラビアのピジン・クレオール」, 亀井ほか(編著):『言語学大辞典 第 1 巻 世界言語編 上』, 483-487. 東京, 三省堂 に所収。
-----.(1992):「マルタ語」, 亀井ほか(編著):『言語学大辞典 第 4 巻 世界言語編 下-2』, 179-187. 東京, 三省堂 に所収。
Wahba, K.M., and Miller, C. (1997) : Egyptian Arabic and Dialect Variation: Critical Observations, 『日本中東学会年報』 *12*, 277-311.

3. アラビア語の文字と発音

アラビア語の文字(以下,「アラビア文字」)[7]は, 正則アラビア語を書き表すための文字だが, 実際には, 口語レベルの発話を表すのにも用いられる。本節では, アラビア文字を, 正則語を書き表すという点に絞って説明した後, 口語, 特にエジプト方言を文字表記する際の問題に触れる。

名称	独立形	尾字形	中字形	頭字形	名称	独立形	尾字形	中字形	頭字形
/ʔalif/	ا	ـا ...	(なし)	ا...	**/tˤaːʔ/**	ط	ـط ...	..ـطـ..	طـ...
/baːʔ/	ب	ـب ...	..ـبـ..	بـ...	**/ðˤaːʔ/**	ظ	ـظ ...	..ـظـ..	ظـ...
/taːʔ/	ت	ـت ...	..ـتـ..	تـ...	**/ʕain/**	ع	ـع ...	..ـعـ..	عـ...
/θaːʔ/	ث	ـث ...	..ـثـ..	ثـ...	**/ʁain/**	غ	ـغ ...	..ـغـ..	غـ...
/dʒiːm/	ج	ـج ...	..ـجـ..	جـ...	**/faːʔ/**	ف	ـف ...	..ـفـ..	فـ...
/ħaːʔ/	ح	ـح ...	..ـحـ..	حـ...	**/qaːf/**	ق	ـق ...	..ـقـ..	قـ...
/χaːʔ/	خ	ـخ ...	..ـخـ..	خـ...	**/kaːf/**	ك	ـك ...	..ـكـ..	كـ...
/daːl/	د	ـد ...	(なし)	د...	**/laːm/**	ل	ـل ...	..ـلـ..	لـ...
/ðaːl/	ذ	ـذ ...	(なし)	ذ...	**/miːm/**	م	ـم ...	...ـمـ...	مـ...
/raːʔ/	ر	ـر ...	(なし)	ر...	**/nuːn/**	ن	ـن ...	...ـنـ...	نـ...
/zaːi/	ز	ـز ...	(なし)	ز ...	**/haːʔ/**	ه	ـه ...	..ـهـ..	هـ...
/siːn/	س	ـس ...	..ـسـ..	سـ...	**/waːw/**	و	ـو ...	(なし)	و ...
/ʃiːn/	ش	ـش ...	..ـشـ..	شـ...	**/jaːʔ/**	ي	ـي ...	..ـيـ..	يـ...
/sˤaːd/	ص	ـص ...	..ـصـ..	صـ...	**/taːʔ marbuːtˤah/**	ة	ـة ...	—	—
/dˤaːd/	ض	ـض ...	..ـضـ..	ضـ...	**/hamzah/**	ء	—	—	—

図表 3-1 アラビア文字一覧

[7] 本稿で扱う「アラビア文字」には, アラビア文字を借用して成立したペルシア文字, ウルドゥー文字等は含まれない。

3.1 アルファベット

アラビア文字は右から左へと，多くの場合，一語を構成する文字を連結させて[8]書かれる。アラビア文字一覧（図表 3-2，外来音を表すپ，چ等は除く）のように，アラビア文字 28 文字中 22 文字は，頭字形，中字形，尾字形，独立形の 4 つの形を持つ[9]。残る 6 文字は中字形がなく，語中にこの種の文字が来たら尾字形にして止め，次の文字を頭字形にして再開する。

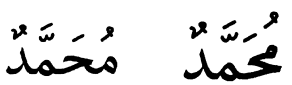
アルファベット最初の文字 ا **/ʔalif/** は，例外的に子音の音価を持たず，母音 **/a/, /i/, /u/, /aː/** を示す。後述するとおり，発音されない場合もある。また，و **/waːw/** と ي **/jaːʔ/** は，半子音を表すと同時に，次項で述べるように，長母音や二重母音を書き表すのにも用いられる。

アルファベット表の末尾に挙げた ة **/taːʔ marbuːtˤah/** と ء **/hamzah/** は，通常，アルファベットには含まれないが，アラビア文字の構成員である。ة **/taːʔ marbuːtˤah/** の発音については 4.1.3 で述べる。ء **/hamzah/** は，声門破裂音 **/ʔ/** を表す。単独あるいは，ا **/ʔalif/**，و **/waːw/**，ى（ي **/jaːʔ/**の下の点のないもの）を台にして書かれる。この ء **/hamzah/** の書き方には一定の規則があるが，この規則については，発音解説が目的の本稿では，割愛する。

以上の例外を除けば，アラビア文字は，各文字の名称の，最初に現れている子音[10]を示す。

実際に手書きや印刷物に出現するアラビア文字の文字形は，先のアルファベット表に挙げたものより，さらに多くなる。例えば，**/muħammadun/**「ムハンマド」（俗に言うマホメット）の名を，先の表に従って書けば，図表 3-2 の左のようになるが，実際には右のような書き方も普通である。

AbiFarès（2001:100）は，こうした合字のパターンを考慮すると，アラビア文字には 130 の文字形（glyph）があると述べるが，この問題について，本稿ではこれ以上深入りしない。



図表 3-2「ムハンマド」

参考文献

AbiFarès, H. S. (2001) :*Arabic typography: A comprehensive sourcebook*, London, Saqi books.

3.2 母音符号

アラビア文字は，基本的に子音を表す。母音を明示するには，その上下に母音符号を振る。ただし，母音符号と呼ばれる記号の中には，無母音を示すもの，子音字の重複を示すものなども含まれており，必ずしも母音を示す符号だけを指す名称ではない。

アラビア語母語話者の成人の読む本や雑誌，新聞等では，母音符号はほとんど振られていない。これに対して，読み間違いの許されない聖典コーランのほか，外国人学習者用の初級教科書などは，母音符号が振られている。コーランなどの古典では，正書法が若干異なることがあるが，本稿では，現代アラビア語の正書法に限定して説明を行なう。

---

[8] 1 音節の前置詞が別の語と繋げて書かれる等の例外もある。

[9] 文字の連結方法に，例外がひとつある。ل **/laːm/** の文字の次にا **/ʔalif/** を連結させた場合は，لا となる。

[10] 子音の発音については，5.2 で述べる。

母音 等	符号	母音 等	符号	母音 等	符号
《短母音》		《長母音》		《二重母音》	
/a/	□َ	/aː/	□ا	/ai/	□َيْ
/i/	□ِ		□ى	/au/	□َوْ
/u/	□ُ		□ٰ	《その他》	
《N 化語尾》		/ʔaː/	آ	母音なし	□ْ
/an/	□اً, □ً	/iː/	□ِي	子音の重複	□ّ
/in/	□ٍ	/uː/	□ُو	連続ハムザ	ـٱ
/un/	□ٌ				

図表 3-3 母音符号一覧

母音	符号	名称		働き	符号	名称	
/a/	َ	فتحة	/fatħah/	母音なし	ْ	سكون	/sukuːn/
/i/	ِ	كسرة	/kasrah/	子音の重複	ّ	شدّة	/ʃaddah/
/u/	ُ	ضمّة	/dˤammah/	ハムザ脱落	ٱ	وصلة	/wasˤlah/
/ʔaː/	آ	مدّة	/maddah/				

図表 3-4 母音符号の名称一覧

母音符号とその名称を，前頁の図表 3-3，3-4 に纏めた。ご覧のとおり，長母音 **/aː/ /iː/ /uː/** は各々，短母音 **/a/ /i/ /u/** の記号を ا **/ʔalif/** 等[11]，ي **/jaːʔ/** ，و **/waːw/** と組み合わせて示す。同じく二重母音 **/ai/ /au/** は，短母音 **/a/** の記号に，ي **/jaːʔ/** ，و **/waːw/** を組み合わせて示す。このように，長母音と二重母音は，文字の上で「母音＋子音」という扱いを受けていることがわかる。

3.2.1 N 化語尾

N化（تنوين **/tanwiːn/**）の語尾とは，**/an/, /in/, /un/** のように，**/n/** の音を伴う語尾である。これらは，名詞・形容詞の語尾にのみ現れ，その格を示す[12]。

これらの語尾は，末尾に **/n/** の音を伴うものの，ن **/n/** の文字は書かれず，母音符号のみで表される[13]。これは，4.1.3 で扱う「休止形」（文末や句末のような休止前の位置で，N化語尾等を読まない形）と関わる問題である。詳細は 4.1.3 で後述する。

---

[11] **/a/** の母音符号とともに，ا **/ʔalif/** ，ى（ي **/jaːʔ/**の下の点のないもの），短剣アリフ（ا **/ʔalif/**を，文字の左肩に短く書いた符号）のいずれかを書いて長母音 **/aː/** を示す。使い分けの規則については割愛。なお，**/ʔaː/** のみ آ （ا **/ʔalif/** の上に波型の符号 مدّة **/maddah/** を載せたもの）で表す。

[12] 非限定形の語尾と説明されることが多いが，実際には，この形の語尾をとる固有名詞は珍しくない。非限定形であっても語尾が N 化しない語も多い。

[13] **/an/** の場合は，通常，末尾に ا **/ʔalif/** が書かれる。ただし，語尾の文字が ة **/taːʔ marbuːtˤah/** の場合等，書いてはいけない場合もある。なお，**/un/** には，図表 3-3 に挙げた形のほか，**/dˤammah/** を 2 つ重ねる書き方もある。

3.2.2 連続ハムザ

直前の語と続けて発音される場合に脱落する語頭母音を，همزة الوصل **/hamzatu-l-wasˤl/**「連続ハムザ」と呼び，ا **/ʔalif/** の文字の上に وصلة **/wasˤlah/** 記号を書いて示す。他方，声門破裂音 **/ʔ/** を表す ء **/hamzah/** は，همزة القطع **/hamzatu-l-qatˤʕ/**「切断ハムザ」と呼ばれる。

語頭が連続ハムザになるのは，以下の語である：

1) 限定辞：اَلْ **/al/**
2) 関係代名詞：اَلَّذِي **/allaðiː/**，اَلَّتِي **/allatiː/** など。
3) 動詞基本形の命令形：اِشْرَبْ **/iʃrab/**「飲め」，اُكْتُبْ **/uktub/**「書け」 など。
4) 動詞派生形第7形以降[14]の完了形（能動態，受動態），命令形，動名詞：
   اِنْكَسَرَ **/inkasara/**「壊れた（第 7 形完了形 3 人称男性単数）」 など。
5) 次の 8 つの名詞[15]：

اِبْنٌ	**/ibn/**	「息子」	اِمْرُؤٌ	**/imruʔ/**	「男」
اِبْنَةٌ	**/ibnah/**	「娘」	اِمْرَأَةٌ	**/imraʔah/**	「女」
اِثْنَانِ	**/iθnaːni/**	「2（男性形）」	اِسْمٌ	**/ism/**	「名前」
اِثْنَتَانِ	**/iθnataːni/**	「2（女性形）」	اِسْتٌ	**/ist/**	「尻」

ただし，文頭等に来ている場合には，語頭の母音が脱落しない。その場合で，ا **/ʔalif/** の文字に ء **/hamzah/** を書かない。しかし，現実には，アラビア語の印刷物等では，連続ハムザであっても ء **/hamzah/** が付されていることが多い。これは，母音だけで成り立つ音節がないので，連続ハムザも，実際には，**/ʔa/, /ʔi/, /ʔu/** のように，声門破裂音 **/ʔ/** を付けて発音されるためである。

3.2.3 綴りや符号が発音と一致しない例

アラビア文字の，綴りと発音との対応ない，例外的な綴りをいくつか挙げる。

《読まれない文字》

/miʔah/「100」は発音通りの مِئَةٌ という綴りのほか，ا **/ʔalif/** の文字の入る مِائَةٌ という綴りもある[16]。

次に，動詞の完了形 3 人称男性複数，未完了形接続法 2 人称男性複数と 3 人称男性複数の語尾にも，発音されない ا **/ʔalif/** の文字が付く。例）كَتَبُوا **/katabuː/**「彼らは書いた」等。この ا**/ʔalif/** の文字は，その直前の و **/waːw/** が，動詞本体から離れたり次の語と近付いたりした際，接続詞 وَ **/wa/**「and」と読み違えられるのを防ぐ役割があるものと考えられる[17]。

また，男性の名で，**/ʕumar/** と **/ʕamr/** は，そのまま綴るとどちらも عمر となってしまうため，

---

[14] アラビア語の動詞は語根たる 3 つ乃至 4 つの子音を基に形成されるが，基本の語根にさらに別の子音を加えるなどして，基本の動詞から他動詞，再帰動詞，使役動詞その他が形成される。その型を「派生形」と呼ぶ。基本形を第 1 形として，派生形は 3 語根動詞の場合，第 2 形から第 15 形までであるが，普通に用いられるのは第 10 形までである。

[15] Wright（1967: Vol.1, 20）は，أَيْمُنْ **/ʔaimun/**「誓い」の語頭のハムザが，前置詞 لِ **/la/** 等の後で脱落する例も挙げる。

[16] Wright（1967: Vol.1, 258）は，この ا **/ʔalif/** は，本来は 2 音節目の母音 **/a/** を表していたが，それがうっかり ـئـ **/ʔ/** の前に書かれたと考え，これを「コーランの最古の書き手らの一部の，へまな仕事の一端によるものに過ぎないようだ」と言う。

[17] このような ا **/ʔalif/** の文字を，أَلِفُ الْوِقَايَةِ **/ʔalifu-l-wiqaːjah/**「予防のアリフ」と呼ぶ。

/ʕumar/ は عُمَرُ , **/ʕamr/** は語尾に発音と関係のない و **/waːw/** を付け عَمْرٌو [18] と書いて区別する。

《同化した音》

限定辞 اَلْ **/al/** の後に，太陽文字と呼ばれる子音の文字（5.2.4 の子音の項で詳述）が来た場合，限定辞に含まれる /l/ の音が，その太陽文字の子音に逆行同化するが，この同化は綴りには反映されない[19]。

例）**/al/** ＋ **/ʃams/** ＝ **/aʃʃams/**「太陽，the sun」だが綴りは الشمس （左から順に，**a-l-ʃ-m-s**）

その他，例えば，前置詞 **/min/**「～から」の次に **/l/** 乃至 **/r/** で始まる語が来た場合，**/min/** がそれぞれ，**/mil/, /mir/** となる同化の現象も，綴りや母音符号には現れない（Mitchell 1990: 90）：

例）**/min/** ＋ **/lundun/** ＝ **/mil lundun/**「ロンドンから」 من لندن

ただし，次に **/m/**で始まる語が来て **/mim/** となる場合は，綴りも変化する（Mitchell 1990: 90）：

例）**/min/**＋**/maː/**＝**/mimmaː/**「from what」مِمَّا ;**/min/**＋**/man/**＝**/mimman/**「from who」مِمَّنْ

このような同化等に関して，コーランの朗誦法 **/attadʒwiːd/** التجويد には，厳密な種々の規定があるが，現代語の発音を扱う本稿では触れない。これ以降も，コーランの朗誦法には言及しない。

《母音符号》

N 化語尾の後に連続ハムザが来て子音が連続する場合，そのときに挿入される補助母音は，母音符号で表せない。例えば，مُحَمَّدٌ **/muħammadun/**「ムハンマド」に，الْكَبِيرُ **/alkabiːru/**「年長の（直訳：the big）」という形容詞を付ける場合，限定辞 **/al/** の語頭の **/a/** が脱落するため，そのまま続けて発音すると子音が 3 連続してしまう。これを避けるため，**/muħammadun i lkabiːru/** と，**/i/** の母音を補う（母音挿入については 4.1.1, 4.1.2 で後述）が，この母音は母音符号で表せない。

しかし，繰り返しになるが，以上のような例外はあるものの，正則アラビア語の綴りと発音は，大部分が 1 対 1 対応，そうでなくとも多対 1 対応しており，母音符号が振られていれば，大抵の場合は，その正確な発音が引き出されると言ってよい。

参考文献

黒柳恒男，飯森嘉助（1999）：『現代アラビア語入門』，東京，大学書林．（泰流社 1976 年刊の再版。解答集を増補。）

Mitchell, T. F. (1990) : *Pronouncing Arabic I*, Oxford, Clarendon Press.

Wright, W. (1967) : *A grammar of the Arabic language: translated from the German of Caspari and edited with numerous additions and corrections*, Third edition rivised by Smith, W. R. and De Goeje, M. J., Cambridge, Cambridge University Press.（第 1 巻が 1859 年，第 2 巻が 1862 年に初版発行。それらの合冊ペーパーバック版。）

---

[18] 因みに主格が عَمْرٌو **/ʕamrun/,** 属格が عَمْرٍو **/ʕamrin/,** 対格が عَمْرًا **/ʕamran/** である。

[19] 母音符号について言えば，発音されない ل **/l/** の文字に何も符号を付けず，次の文字に，子音の重複を示す شدّة **/ʃaddah/** の記号「ّ」を付す：الشَّمْسُ

3.3 方言の表記

風刺漫画のキャプション，小説中の会話文，映画や劇の題名，歌謡曲の曲名など，アラビア語エジプト方言は，日常的にアラビア文字で書き表されている。بيرم التونسي **/biːram it-tuːnisi/**（1961没）は，エジプト方言で詩や戯曲を書いた。また，外国人向けエジプト方言学習書でも，アラビア文字表記を採用しているものが目に付く(Jenkins 2001, Lexus 2002, 西尾&師岡 1997 等)。

エジプト方言の学習書でアラビア文字を用いる利点について，Hassanein & Kamel(n.d.)は，その Introduction（頁数表示なし)で，次の 2 点を挙げている:

1) 正則アラビア語を既習の学生に対して，彼らが既に認識している形でエジプト方言を提示することにより，学習に費やすべき時間と労力を節約することができる。
2) 正則アラビア語とエジプト方言とには，形態論レベルで共通点があるので，アラビア文字でエジプト方言を提示すれば，語彙そのものや，統語的な面での素早い理解に役立つ。
   例 1）エジプト方言の **/dawa/**「薬」は語尾が **/a/** なので，ة **/taːʔ marbuːtˤah/** で終わる女性名詞と誤解されかねないが，دوا という綴りを示せばすぐに男性名詞だと理解される。
   例 2）同時に，エジプト方言の **/dawa/** と正則語のدواء **/dawaːʔ/** との関連性も理解できる。
   例 3）動詞の派生形[20]の理解もより早く容易になる。

これらは，外国人学習者だけでなく，エジプト方言の母語話者についても言えることではないだろうか。正則アラビア語とエジプト方言の間の共通点を生かし，既に認識している形でエジプト方言を提示することで，読み取りの時間と労力を，無意識の内に，節約しているものと思われる。

しかし，同時に，Hassanein & Kamel(n.d.)は，エジプト方言のアラビア文字表記の限界や制約についても触れている。正則語にない母音や母音の組み合わせ，一部の子音，補助母音，強勢のパターン等，アラビア文字表記で表せない要素がいくつもある。エジプト方言の母語話者なら，正しい発音が既に身に付いており，不完全な文字表記からでも正しい読み取りが可能だが，外国人学習者は，正しい発音が読み取れず，学習の障害となってしまう。この問題を克服するため，Hassanein & Kamel(n.d.)は，必要に応じてローマ字表記版を参照するよう推奨している。

Badawi & Hinds(1986)の辞典では，アラビア文字と音韻転写を併記して正しい発音を示しつつ，口語の発音と正則語の綴り・発音との整合性をはかり，両者の対応が把握可能な構成だ[21]。

Al-Tonsi et al.(1986: 1)は，正則語の綴りを可能な限り保持しつつ，エジプト方言の正確な発音を書き表すために，いくつかの符号を用いている。これは，Khalil Asaakir 博士が開発し，1950 年，エジプト・アラビア語アカデミーに承認されたシステム[22]に多少の改編を加えたものである。

下に，母音に関する符号の例(Al-Tonsi et al. 1986: 2-5)を挙げた(図表 3-5)が，子音についても同様に，例えば，正則語の **/q/** に対応する **/ʔ/** は，ق **/qaːf/** の文字の上に，点 2 つの代わりにハムザ ء を書く，ث **/θ/**，ذ **/ð/**が各々**/s/, /z/**と発音された場合は原綴を残すが，**/t/, /d/**と発音された場合は発音通り綴る，等(Al-Tonsi et al. 1986: 2-5)の規則を設けて表記している。

---

[20] 3.2.2「連続ハムザ」の注 13 参照。ただし，エジプト方言の派生形の型が正則語のそれと異なる部分もある。

[21] 例えば，**/masal/**「例」は，正則語では，مَثَل **/maθal/** だが，Badawi & Hinds (1986) でこの綴りを引くと，م س ل (m s l)の項を見るよう指示があり，その項で，「مثل **masal**」として掲載されている。

[22] これはアラビア語アカデミー誌の Vol.8 に掲載されたとのこと (Al-Tonsi et al. 1986: 1)だが，筆者は未見。

こうした符号がきっちり振られたアラビア語文は，正しい発音への足掛かりである反面，慣れない外国人にとっては，訓点だらけの漢文を読まされているような煩雑な印象も否めない。

短母音化は，ˆ で示す。 **/ʕauza/**「欲しい」の例：	عاوزة	長母音**/eː/** は，⊂で示す。 **/beːt/**「家」の例：	بيت
長母音化は，ˇ で示す。 **/issanaː di/**「今年」の例：	السنة دى	長母音 **/oː/** も同じく⊂。 **/joːm/**「日（day）」の例：	يوم
短母音の脱落は，その母音符号を円で囲んで示す。 **/gidiːd/**「新しい」に対する **/da gdiːd/**「これは新しい」の例：	دا جديد		
補助母音は，ローマ字の e を右下に添えて示す。 **/darse ʕarabi/**「アラビア語レッスン」の例：	درس عربي		

図表 3-5 エジプト方言の母音を示す補助記号の例

参考文献

Al-Tonsi, A., Al-Sawi, L. and Massoud, S. (1986) : *An intensive course in Egyptian colloquial Arabic: Part (I)*, Cairo, [The] American University in Cairo.

Badawi, E-S. and Hinds, M. (1986) : *A dictionary of Egyptian Arabic*, Beirut, Librairie du Liban.

Hassanein, A. and Kamel, M. (n.d.) : يالاه ندردش بالعربي: *Let's chat in Arabic*, [Cairo, The American University in Cairo.] (*Yalla-Ndardish bi-lʕarabi: Let's chat in Arabic: A practical introduction to the spoken Arabic of Cairo.* のアラビア文字版)

Jenkins, S. (2001) : *Egyptian Arabic phrasebook* (2nd edition), Hawthorn, Lonely Planet Publications Pty Ltd.（初版は Wayne, S.著 1990 年刊）

Lexus (complied with Ahmed M. A. Abdel-Hady). (2002) : *Egyptian Arabic: A Rough Guide dictionary phrase book* , London, Rough Guide Ltd.（改訂版。初版は 1990 年）

西尾哲夫，師岡カリーマ・エルサムニー. (1997) :『エクスプレス エジプト・アラビア語』，東京，白水社.

4. アラビア語の音節

4.1 正則アラビア語のモーラと音節

アラビア語を発音を理解する際，音節とともに大切な概念がモーラ（拍）である。音節は，聞こえ度の高い音を中心とした音のまとまりだが，これは，アラビア語の場合，必ず母音を中心とした音のまとまりとなる。これに対し，モーラは音長の単位である。**/naʕam/** نَعَمْ（はい）は，**/na.ʕam/**という 2 音節の語であると同時に，**na-ʕa-m** という 3 モーラの語でもある。（以下，子音を C，短母音を V，長母音を **Vː** で，モーラの境界をハイフンで示す。音節の境界は，IPA 通り，ピリオドで示す。）

4.1.1 正則アラビア語のモーラ

モーラは，アラビア語のリズムと深く関連している。例えば，アラブの古典定型詩は，その型をモーラによって規定している。具体的には，モーラの形を CV 型と C 型に大別し，この 2 つの型の組み合わせ方によって型を示す。فَاعِلاتُنْ CV-C-CV-CV-C-CV-C というパターンであれば，CV を / で，C を o で表して，o/o//o/ と表記される（アラビア文字と同じ方向で，右から左へと書かれる）。

3.2で既述のように，長母音と二重母音は，文字の上でVCと書かれる。定型詩でも，CV**:**（長母音を伴う音節）とCVV（二重母音を伴う音節）という2モーラの音節は，CV-Cとして扱われる。本節では，単子音に加え，長母音や二重母音の2モーラ目も一括してC型モーラと呼ぶこととする。

定型詩以外のアラビア語の音韻論レベルでも，CV**:** 及びCVVはCV-C型として振舞う。これは，音節構造，ひいてはアクセント規則の上でも，CV**:** やCVVは閉音節と同様に扱われる。

長母音（CV-C型）の後に二重子音（CC）が来て，C型のモーラが2連続するのは稀である。ضالّ/**dˤa:llun/**「道に迷った，道を踏み外した者」(CV-**C-C**-CV-C)のような例はいくつか挙げられるが少ない[23]。ただし，文末等の休止形（4.1.3で後述）では，C型モーラ2連続も十分有り得る。

通常，C型モーラの連続は，連続ハムザのために生じる。この場合，(1) 短母音を挿入する（C-CをCV-Cにする）か，(2) 長母音を短化する（C-Cを-Cにする）ことで，C型モーラの連続を回避する：

(1) 短母音（この場合は **/i/** ）を挿入する例[24]：

***qa:lat**	**-l-**	**bintu.**		**qa:lati**	**-l-**	**bintu.**
CV-C-CV-**C**	**-C-**	CV- C – CV	→	CV-C-CV-**CV**	**-C-**	CV- C - CV
（彼女が）言った	<al- 限定辞	娘		「その娘は言った。」		

(2) 長母音を短母音化する例：

***ma:**	**smu**	**-ka** ?		**ma**	**smu**	**-ka** ?
CV-**C**	**-C**-CV	-CV	→	CV	**-C**-CV	-CV
何	<ismu 名前	貴男の		「貴男のお名前は何ですか？」		

4.1.2 正則アラビア語の音節

ここでは，まず，休止形（4.1.3 で後述）については除外して，正則アラビア語の音節について説明する。休止形を除外すると，正則アラビア語の音節の型は以下の通りである：

CV型（CV），CVC型（CVC**,** CV**:,** CVV），稀にCVCC型（CV**:**C）

子音2つ以上で始まったり終わったりする音節（*CCV, *CVCC）はない。この点からも，CVCC型となるCV**:**Cという音節の型は特異といえる。

*CCV, *CVCCは，形態レベルでも，この型を避けるため，母音挿入などが行なわれている：

命令形の例（*CCVを避ける）：

未完了形希求法2人称の形から，接頭辞 **/ta-/** または**/tu-/** を除いて，命令形が作られる。接頭辞を除いた残り部分が，CC で始まっていた場合，**/i/** または **/u/** を語頭に補う[25]。

例）**/tak.tub/**「貴方は書く（未完了形希求法2人称男性単数形）」＞***/ktub/** ＞***/uk.tub/** ＞ **/ʔuk.tub/**「書け（男性単数形）」

Vという音節の形はないので，実際には，**ʔ**Vで発音されるので，最後のような形になる。

---

[23] 通常，アラビア語の語は語根たる3つの子音を基に形成される。語根3子音のうち，第2，第3子音が同一の動詞の場合，その能動分詞は，長母音（CV-C型）の後に重子音（C-C型）が来る形となる。

[24] このような場合に補われる母音は，**/i/** であることが多いが，**/u/, /a/** が補われる場合もある。

[25] 第2子音の次の母音が，**/u/** の場合は語頭に **/u/** を補い，その他の場合は **/i/** を補う。

未完了形希求法の例(*CVCC を避ける):

希求法は，単数形の場合，多くが直説法の語尾の母音 **/-u/** を除いて作られる。ただし，語根 3 子音のうち第 2，第 3 子音が同一音の動詞では，語尾の母音を除いた残りが CC で終わるため，語尾に母音**/-a/** を補って接続法と同形にするか，規則動詞の活用形を援用する。

例)**/ya.mur.ru /**「彼は通る(未完了形直説法 3 人称男性単数形)」 ＞*/**ya.murr/**

＞ **/ya.mur.ra/** あるいは，**/yam.rur/**「彼は通る(希求法 3 人称男性単数形)」

4.1.3 正則アラビア語の休止形

先に 2.2「アラビア語の規範」の項でも述べたように，正則語の特徴のひとつは，イウラーブと呼ばれる，名詞の格変化や動詞の法の区別(語尾変化)の厳格さである。しかし，句末や文末など，読みの休止の直前や，あるいは単語を単独で読み上げたときには，語末を短く発音したり，名詞の格や動詞の法を表す短母音を脱落させて発音する。このような形を，休止形と呼ぶ。

現代口語では失われているイウラーブは，アラブ人でさえ，正則語習得や運用の際に困難を感ずる項目である(2.2.3 を参照)。Baseton(2003: 8)は，多くのアラビア語話者が，正則語での休止形の使用を最大限に拡大していると述べている。

休止形とはどのような形か，具体的に例を挙げる(Baseton 2003: 8, Rodgers 2002: 34)。

1) 語尾の母音を外す。 例) قام **/qaːma/**「彼は起きた」:休止形 **/qaːm/**

2) 3.2.2 で説明した N 化語尾は，語尾の **/n/** の音，あるいは，語尾の **/n/** の音とその前にある格を示す母音の両方を外す。 例) بيت **/baitun/**「家(主格，非限定)」:休止形 **/bait/**

3) ة **/taːʔ marbuːtˤah/** は，名詞等の語尾のみに現れ，直前の母音は必ず **/a/** となる。これが語尾に来ると，格を示す母音を外し，それ自身の **/t/** 音も発音しない，あるいは **/h/** と発音する。

例) مكتبة **/maktabatun/**「図書館，書店(主格，非限定)」:休止形 **/maktaba/** ～ **/maktabah/**

4) ただし，N 化語尾の対格 **/an/** の形は例外(綴りの面でも例外的で，大抵は末尾に ا **/ʔalif/** が書かれる)で，正式には休止形では **/aː/** という長母音に置き換わる。しかし，あまり改まった感じのない格式ばらない発話の場合には，**/an/** の形を保つ。

例) بيتًا **/baitan/**「家(対格，非限定)」:休止形 **/baitaː/** ～ **/baitan/**

5)第 3 語根が و **/w/** や ي **/j/** の動詞の能動分詞等，N 化語尾が主格でも **/in/** となる場合，主格と属格の語尾 **/in/** は **/iː/** という長母音に置き換わる。

例) قاضٍ **/qaːdˤin/**「裁き司，裁判官(主格・属格，非限定)」:休止形 **/qaːdˤiː/**

これらは，アラビア語の散文を読む場合の休止形の規則である。古典定型詩など韻文を読む場合の休止形には，さらに特別な規則があるが，現代語の発音を扱う本稿では，特に触れない。

以上のような発音を採用した場合であれば，前節では無いと述べた CVCC 型の音節，例えば，**/qaːm/**「彼は起きた(休止形)」，**/bait/**「家(休止形)」という形も，出現することになる。

参考文献

Bateson, M.C. (2003) : *Arabic language handbook*, Washington, D.C., Georgetown University Press. (1967 年刊の再刊)

Rodgers, J. (2002) : *A grammar of Classical Arabic*, New Haven/London, Yale University Press. Translated from Fischer, W. *Grammatik des klassischen Arabisch.*

4.2 アラビア語エジプト方言の音節

エジプト方言の音節の型は，正則アラビア語の休止形まで含めた音節の型と考えれば，わかり易い。エジプト方言の音節の型は，次のようにまとめられる。

CV 型(CV)，CVC 型(CVC, CVː, CVV)

文末のような，休止前でのみ，CVCC 型(CVCC, CVːC, CVVC)

CVCC 型音節の後にさらに別に音節が続くこと，すなわち，C 型モーラ 3 連続はないので，3 連続を避けるため，一般的には補助母音を挿入する。Harrell(1957: 84)の挙げた補助母音の例:

/kutub/ 「本(複数)」	＋**/na/**「私たちの」	**/kutubna/**「私たちの本(複数)」
/dars/ 「レッスン」		**/darsina/**「私たちのレッスン」

また，文の中で，独立した語同士の語末と語頭で 3 子音の連続が起きてしまう場合にも，補助母音が挿入される。Harrell(1957: 84)の挙げた補助母音の例:

/ʔaʁsil/「私は洗う」	＋**/wiʃʃi/**「私の顔」	**/ʔaʁsil wiʃʃi/**「私は顔を洗う」
/ʁasalt/「私は洗った」		**/ʁasalt*e* wiʃʃi/**「私は顔を洗った」

なお，上記の挿入母音 ***e*** は，**/i/** の異音だが，敢えて **i** でなく **e** で表記している。5.1「母音」の項で後述するが，語末に，形態素あるいはその一部として **/i/** がある場合，**[i]** と発音されるが，また一方で，上記のように，子音の連続を避けるための補助母音は，**[e]**～**[ɵ]** と発音されるため，以下，この発音の区別のため，本稿では，補助母音の**/i/** は，斜字体の ***e*** で表記する。

Abu-Mansour (1992: 49) は，長母音の後に 2 子音が連続することになった場合に，その長母音が短母音化する現象を挙げている。

例) **/bin.ruːħ/**[26]「私たちは行く」:**/ma bin.ruħ ʃ/**「私たちは行かない」

/duruːs/「レッスン(複数)」:**/durus hum/**「彼らのレッスン(複数)」

***/ma bin.ruːħ ʃ/** では，末尾が CVCCC 型(CVːCC)というあり得ない音節型だ。

***/du.ruːs. hum/** では，文末のみに現れるはずの CVCC 型の後に，さらに別の CVC 型音節が付いてしまう。

また，Abu-Mansour (1992: 49) は，狭母音の脱落によって子音束が生じた場合も，やはり長母音の短母音化が起こることを示す:

例) ***/taːxudi/**[27]＞***/taːxdi/** ＞ **/taxdi/**「貴女は取る(未完了形)」

---

[26] エジプト方言では，未完了形の語頭に **/bi/** を付けて，進行相や習慣相を表す。なお，**/bi/** の語源は不明。

[27] 正則語では，**/taʔxuðiːna/** である。口語の未完了形 2 人称女性形では，末尾の **/na/** が脱落する(正則語でも，接続法や希求法では，同様に脱落する)。また，語中の **/ʔ/** が消えて長母音になる現象は普通に見られる。

なお，狭母音の脱落はエジプト方言では珍しくない[28]。また，Gaber（1986: 22-23）が挙げるのは，正則語で，Ci という音節が，次末音節に来て，かつ開音節に先立たれている場合，アクセントを持たないのだが，これを口語的に発音すると，この Ci の音節が消えてしまうという現象である：

例）**/muħ.ˈta.ʃi.ma/**＞**/muħ.ˈtaʃ.ma/**「慎み深い（女性単数）」

参考文献

Abu-Mansour, M. (1992) : Closed Syllable Shortening and Morphological Levels. In Broselow, E., Eid, M. and McCarthy, J. (ed.) *Perspectives on Arabic Linguistics IV,* 47-75. Amsterdam / Philadelphia, John Benjamins Publishing Company.

Broselow, E., Eid, M. and McCarthy, J. (ed.) (1992) : *Perspectives on Arabic Linguistics IV*, Amsterdam / Philadelphia, John Benjamins Publishing Company.

Harrell, R.S. (1957) : *The phonology of Colloquial Egyptian Arabic*, New York, American Council of Learned Societies.

Gaber, A. (1986) : *Sounds of Arabic*, Omraniya (Giza), New Offset Printing Shop.

Mitchell, T. F. (1978) : *An Introduction to Egyptian Colloquial Arabic*, Oxford, Clarendon Press.（再版のペーパーバック版。初版は 1956 年）

5. アラビア語の母音と子音

5.1 母音

5.1.1 母音体系概略

正則アラビア語の母音音素は，短母音 **/a/ /i/ /u/** と各々に対応する長母音，二重母音**/ai/ /au/** だが，**[e]** や **[o]** 等の異音も出現する。エジプト方言では，二重母音が長母音になるほか，本来は **/a/** の異音同士だった **[a]** と **[ɑ]** が音素として対立する場合もある。

5.1.2 母音音素目録

《正則アラビア語の母音音素目録》

音素	音声とその環境		用例
《短母音》			
/a/	**[ə]**	（語末で強調音と隣接①）	**/ʕadˤdˤa/ [ʕʌdˤdˤə]** عضّ「噛む」
	[ɑ]	（強調音等②と隣接）	**/dˤamm/ [dˤɑmm]** ضمّ「併合」
	[ʌ]	（/ʕ/, /ʁ/と隣接）	**/ʕamm/ [ʕʌmm]** عمّ「父方のおじ」
	[a]	（上記以外）	**/dam/ [dam]** دم「血」
/i/	**[ɨ]**	（強調音③と隣接）	**/dˤidda/ [dˤɨdda]** ضدّ「～に対して」
	[ɪ]	（/ʕ/, /ʁ/と隣接）	**/ʕidda/ [ʕɪdda]** عدّة「数多く」
	[i]	（上記以外）	**/dibb/ [dibb]** دبّ「熊」
/u/	**[ʊ]**	（強調音③と隣接）	**/dˤuju:f/ [dˤʊju:f]** ضيوف「客（複数）」
	[u]	（上記以外）	**/duju:n/ [duju:n]** ديون「借金（複数）」

[28] 方言の 2.3.2「地理的区分」の項の，4）エジプト・スーダン方言 あるいは，5.1.4「母音体系の特徴について」の《アラビア語エジプト方言の母音》も参照のこと。

《長母音》			
/aː/	[ɑː]	(強調音等②と隣接)	/dˤaːʕa/ [dˤɑːʕə] ضاع 「紛失する」
	[ʌː]	(/ʕ/, /ʁ/と隣接)	/ʕaːda/[ʕʌːda] عاد 「帰る」
	[aː]	(上記以外)	/daːma/ [daːma] دام 「続く」
/iː/	[ɨː]	(強調音③と隣接)	/dˤiːq/ [dɨːq] ضيق 「狭さ」
	[ɪː]	(/ʕ/, /ʁ/と隣接)	/ʕiːd/ [ʕɪːd] عيد 「祭, 祝祭日」
	[iː]	(上記以外)	/diːn/ [diːn] دين 「宗教」
/uː/	[ʊː]	(強調音等③と隣接)	/tˤuːb/ [tˤʊːb] طوب 「煉瓦」
	[uː]	(上記以外)	/duːn/ [duːn] دون 「低級な」
《二重母音》			
/ai/	[ɑi]	(強調音等と隣接)	/dˤaif/ [dˤɑif] ضيف 「客」
	[ʌi]	(/ʕ/, /ʁ/と隣接)	/ʕain/ [ʕʌin] عين 「目, 泉」
	[ai]	(上記以外)	/dain/ [dain] دين 「借金」
/au/	[ɑu]	(強調音等②と隣接)	/tˤauq/ [tˤɑʊq] طوق 「首飾り」
	[ʌu]	(/ʕ/, /ʁ/と隣接)	/ʕauda/[ʕʌuda] عودة 「帰り」
	[au]	(上記以外)	/daur/ [daur] دور 「順番」

①強調音と隣接:非強調音または/q/, /ʕ/, /r/, /ʁ/ と隣接していないこと。
②強調音等:/q/ と /r/ を含む。　③強調音:/l/ を除く。　Al-Ani (1970)などによる

《アラビア語エジプト方言の母音音素目録》

音素	音声とその環境		用例
《短母音》			
/a/	[a], [ɛ]		/dawa/ [dawa] دواء 「薬」
	[ɑ], [ɔ]	(強調音等と隣接)	/dˤawa/ [dˤɑwɑ] ضوى 「輝く」
/i/	[ɪ], [e]		/dibb/ [debb] دبّ 「熊」
	[ə]	(強調音等と隣接)	/dˤidd/ [dˤədd] ضدّ 「～に対して」
	[i]	(語末)	/di/ [di] دي 「これ(女性単数)」
/u/	[ö̞]		/dubb/ [dö̞bb] دبّ 「熊」[29]
	[o], [ʊ]	(強調音等と隣接)	/dˤuhr/ [dˤohrˤ] ظهر 「正午」
《長母音》			
/aː/	[aː], [ɛː]		/daːm/ [daːm] دام 「続く」
	[ɑː], [ɔː]	(強調音等と隣接)	/dˤaːʕ/ [dˤɑːʕ] ضاع 「紛失する」
/iː/	[iː]		/diːn/ [diːn] دين 「宗教」
	[ɪː]	(強調音等と隣接)	/tˤiːn/ [tˤɪːn] طين 「泥」
/uː/	[uː]		/duːn/ [duːn] دون 「低級な」

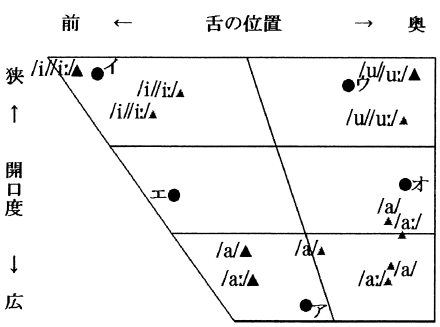
[29] /dibb/ より正則語的なレベルの発音。

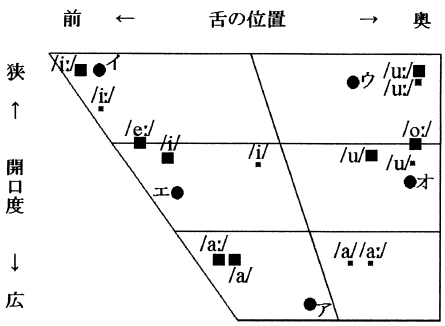
/eː/	**[eɪ],[eː]**	**/deːn/ [deɪn]** دين 「借金」
(**/e/**)	**[e]** (子音2つが後続)	**/denna/ [denna]** دينا「私達の借金」
/oː/	**[oʊ],[oː]**	**/doːr/ [doʊr]** دور 「順番」
(**/o/**)	**[ȯ]** (子音2つが後続)	**/dorna/ [dȯrna]** دورنا「私達の順番」

Norlin (1984, 1987)などによる

5.1.3 母音図による表示

5.1.2 に基づいて，アラビア語の母音を図で示す:





5.1.4 母音体系の特徴についての記述

正則語の二重母音 **/ai/, /au/** は，エジプト方言では概ね **/eː/ /oː/** に対応する(例:正則語 **/bait/**「家」, **/jaum/**「日」>エジプト方言 **/beːt/**, **/joːm/**)が，他方，エジプト方言で，**/ai/, /au/** を残した語形を抽象的，学術的な意味で用い，**/eː/ /oː/** に変化した語形を具体的，日常的な意味で用いるという使い分けも見られる。Carter (1996:138) は，**/haikal/**「構造，枠組み」と **/heːkal/**「教会の聖所」や，**/daura/**「期間，段階，循環，等」と **/doːra/** (ほぼ同意だが，前者の方がより学術的で，例えば**/doːrit ilmajja/**「お手洗い」を*/**daurit ilmajja/** とは恐らく言わない)の例を挙げている。

短母音に関しても，Carter (1996:138) は，正則語の発音を残す**/mufrad/**「単数，単一の」対 **/mifrid/** (不変化)「(ダブルや混合に対する)シングルの」や，より正則語的と見なされる後ろ寄りの発音の **/fɑrd/**「一人，個人」対 **/fard/**「(ダブル等に対する)シングル」を挙げている。

最後の例は，**/a/** の異音同士だった **[a]** と **[ɑ]** がエジプト方言で音素として対立する例である。

《正則アラビア語の母音》

Brustad et al.(1995: 9, 21)は，**/aː/** と **/a/** は音長の差だけではなく，音質そのものも異なるとし，**/aː/**の範囲を**[a]**～**[ɑ]**，**/a/**の範囲を**[ɛ]**～**[ʌ]**とする。Al-Ani(1970: 23)が，母音を単独で発音し，その周波数を測定した結果も，**/aː/**の第1フォルマントが675Hzに対し，**/a/** は600Hzと狭い。これは，**/iː/**と**/i/**，**/uː/**と**/u/**の第1フォルマントが5Hzずつしか違わなかったのと対照的である。

音長について言えば，Al-Ani(1970: 23)によれば，長母音は短母音の2倍の持続時間を持つ。

また，Brustad et al.（1995: 8）は，**/aː/**の異音について，地域的な差異と，周囲の子音の 2 つを要因に挙げる。まず，地域的には，湾岸地域（サウジアラビア，クウェート，イラク，その他近隣諸国）では，後ろ寄りの **[ɑː]** で発音されるが，地中海地域では，前寄りの **[aː]** で発音される。

次に，強調音（咽頭化，軟口蓋化または口蓋垂化した子音。5.2 で詳述）の影響があれば，強調音は口腔の後ろで発音されるので，**/aː/**も後ろ寄りに発音される。よって，**/sˤ//dˤ//tˤ//ðˤ/**は，これらに続く**/a//aː/**を後ろ寄り**[ɑ][ɑː]** にする（Brustad et al. 1995:62, 65, 78, 79）。**/q/**も**/k/**の強調音と解釈され，**/a/**の母音が次に来る場合**[ka]**に対して**[qɑ]**となる（Brustad et al. 1995:102）。強調音に **/r/** は普通含まれないが，**/r/**に続く **/a//aː/** も後ろ寄り **[ɑ][ɑː]** で発音する（Brustad et al. 1995:48）。

Mitchell（1990:88）は，二重母音**/ai/ /au/** は，最初の **/a/** をその環境に応じた音で発音し，次の **/i/ /u/** はそれぞれなるべく **[i]** や **[u]** に近付けて発音する，としている。

《アラビア語エジプト方言の母音》

<u>長母音と短母音</u>　Norlin（1984: 193）によれば，エジプト方言の長母音の音長は，対応する短母音の音長の 1.9 倍前後である。エジプト方言では，長母音は，アクセントのある音節にのみ現れるが，アクセントがあっても，語末を除いて，閉音節には現れない（Mitchell 1978: 112）：

例）**/ma.na.ˈdiːl/**「ハンカチ（複数）」に対して **/ma.na.ˈdil.ha/**「彼女のハンカチ（複数）」

/iː/と**/eː/**, **/uː/**と**/oː/**は，音素として対立し，**/ʔiːʃ/**「生きろ」：**/ʔeːʃ/**「パン」，**/diːn/**「宗教」：**/deːn/**「借金」等の最小対もあるが，上述のような閉音節での長母音の短化により，これらが短母音となった場合，**/ʔiʃna/**「我々は生きた」：**/ʔeʃna/**「我々のパン」，**/dinna/**「我々の宗教」：**/denna/**「我々の借金」 の各ペアは，形態論レベルでは対立をなすが，発音の区別はない[30]（Ferguson 1954: 559）。

また，Gaber（1986:88-89）は，一般的に，長母音は対応する短母音よりも狭く，その傾向は **/a/, /i/** の方が**/u/** より顕著であることを指摘している。

<u>二重母音</u>　Mitchell（1978:11）の説明では，二重母音は，母音のあとに**/j/, /w/**が来たとき，それらが各々**/i/ /u/** と発音されるために生じるものである：例）**/ʃaːj/[ʃaːi]**「茶」，**/jiwsˤal/[jiusˤal]**「彼は到着する」（＞**/wasˤal/**「到着する」），**/bujti/[buiti]**「私のペンキ」（＞**/buːja/**「ペンキ」） など。

<u>強調音と後ろ寄りの母音の共起</u>

母音が強調音等と共起した場合，非強調の環境で発音された場合よりも，後ろ寄りの音となる。先述のように，エジプト方言では，**/a/** の異音同士だった **[a]** と **[ɑ]** が音素として対立する。例えば，**/walla/**「or」：**/wɑllɑ/**「アッラーにかけて」，**/ʔabla/**「～の前」：**/ʔɑblɑ/**「お姉さん，先生」（Harrell 1957:74）など。ただし，この場合，母音の相違という観点ではなく，**/l/**などの子音が強調音化したという解釈も可能である――というより，実際，子音が強調音化して，その影響で母音が後ろ寄りになったというのが正しい因果関係であろう。

しかし，そのような解釈に基づいて，**/lˤ//bˤ//rˤ/**等々の新しい音素を立てていくのは，徒に音素の数を増やすだけのことにもなりかねない。本稿では，本来の**/tˤ//dˤ//sˤ//zˤ/**以外の強調音の音素を

---

[30] 5.1.3 の右図からも，**/i/**と**/eː/**の近さが読み取れるであろう。

立てず，音の強調化に関しては，母音の音質の面から考察するという立場を取りたいと考える。

語末の/i/　語末の CV 音節にはアクセントは来ないが，それは決して短く発音されず，母音が**/i/**の場合，**/i/**の音は狭く緊張を伴う[31]（Gaber 1986:28）：例）**/nisi/**「彼は忘れた」の語末の**/i/**は第 1 音節の**/i/**に比してより狭く緊張している。**/a/**にはこうした違いはない（例：**/mala/**「彼は満たした」）。

狭母音の脱落　母音で始まる接尾辞が，1）末尾の音節が CiC か CuC の形で，かつ，2）次末音節が開音節の語に付いたとき，末尾の音節の**/i//u/**はほぼ脱落する（Mitchell 1978: 113）。

また，**/i//u/**が，語頭の音節（短く，アクセントなし）にあり，先立つ語が母音で終わっている場合，**/i//u/**は脱落する（Mitchell 1978: 114）：

/ʔana fiˈhimt/＞**/ʔa.na‿f.himt/**「私は理解した」，**/ʔabu ħuˈseːn/**＞**/ʔabu ħseːn/**「フセインの父」

/ʕandi ħumaːr/＞**/ʕandi ħˈmaːr̃/**[32]「私はロバを飼っている」など。

強調音の発音があるときは，母音が脱落しないこともある（**/jɑː χosˤɑːrˤɑ/** に対して，**/ja χsˤɑːra/**）が，こうした母音，特に狭母音の脱落の多さが，エジプト方言の特色のひとつである。

参考文献

Al-Ani, S.H. (1970) : *Arabic Phonology: An acoustical and physiological investigation*, The Hague/Paris, Mouton.

Brustad, K., Al-Batal, M. & Al-Tonsi, A. (1995) : *Alif Baa: Introduction to Arabic Letters and Sounds*, Washington D.C., Georgetown University Press.

Carter, M. (1996) : Signs of Change in Egyptian Arabic. In Elgibali, A. (ed.) *Understanding Arabic: Essays in contemporary Arabic Linguistics in Honor of El-Said Badawi*, 137-143. Cairo, The American University in Cairo Press.

Eid, M. and Holes, C. (ed.) (1993) : *Perspectives on Arabic linguistics V*, Amsterdam / Philadelphia, John Benjamins Publishing Company.

Elgibali, A. (ed.) (1996) :*Understanding Arabic: Essays in contemporary Arabic Linguistics in Honor of El-Said Badawi*, Cairo, The American University in Cairo Press.

Ferguson, C.A. (1954) : Review: *Growth and structure of the Egyptian Arabic dialect* by Harris Birkeland., *Language*, 30, 558-564.

Gaber, A. (1986) : *Sounds of Arabic*, Omraniya (Giza), New Offset Printing Shop.

Harrell, R. S. (1957) : *The phonology of colloquial Egyptian Arabic*, New York, American Council of Learned Societies.

Mitchell, T. F. (1978) : *An Introduction to Egyptian Colloquial Arabic*, Oxford, Clarendon Press.（再版のペーパーバック版。初版は 1956 年）

-----. (1990) : *Pronouncing Arabic I*, Oxford, Clarendon Press.

Norlin, K. (1984) : Acoustic analysis of vowels and diphtongs *(sic)* in Cairo Arabic. *Working Papers (Department of Linguistics, Lund University), 27*, 185-208.

-----. (1987) : A phonetic study of emphasis and vowels in Egyptian Arabic. *Working Papers (Department of Linguistics, Lund University), 30*, (10+)119pp.

Younes, M. (1993) :Emphasis Spread in Two Arabic Dialects. In Eid, M. and Holes, C. (ed.) *Perspectives on Arabic linguistics V*, 119-145. Amsterdam / Philadelphia, John Benjamins Publishing Company.

---

[31] なお，このように語末の**/i/** は**[i]** と発音されるが，子音衝突を避けるための補助母音***e*** は別。4.2 参照。

[32] この**/ħ/**は，円唇で発音される**[ħʷ]**。もし非円唇で発音するとあまり容認されないという。

5.2 子音

5.2.1 子音体系概略

アラビア語の子音には4種の「強調音」(咽頭化音乃至軟口蓋化音)がある。これら以外にも，咽頭や口蓋垂など口腔の奥の子音が7つある。反面，**/b/, /f/** に対する **/p/, /v/** という音素が欠けている。また，正則アラビア語とエジプト方言の子音の対応で，特徴的なのは，**/dʒ/:/g/** である。

5.2.2 子音音素目録

《正則アラビア語の子音音素目録》

音素	音声とその環境	用例
《破裂音》		
/b/	**[b]**	**/bi/ [be]** ..بِـ 「～によって」
/t/	**[t]**	**/ta/ [ta]** ..تَـ 「～にかけて」
/d/	**[d]**	**/dam/ [dam]** دم 「血」
/tˤ/	**[tˤ]**	**/tˤaːhaː/ [tˤɑːhɑː]** طه (コーラン第20章)
/dˤ/	**[dˤ]**	**/dˤamm/ [dˤɑmm]** ضَمّ 「併合」
/k/	**[k]**	**/ka/ [ka]** ..كَـ 「～のような」
/q/	**[q]**	**/qad/ [qad]** قَدْ 「既に」
/ʔ/	**[ʔ]**	**/ʔa/ [ʔa]** ..أ 「～ですか？」
《鼻音》		
/m/	**[m]**	**/maː/ [maː]** مَا 「何」
/n/	**[n]**	**/naː/ [naː]** ..نَـا 「私たちの」
《ふるえ音》		
/r/	**[r]** 重複した場合	**/marra/ [marra]** مَرَّ 「彼は通った」
	[ɾ] 重複しない場合	**/marart/ [maɾarto]** مَرَرْتُ 「私は通った」
《摩擦音》		
/f/	**[f]**	**/fa/ [fa]** ..فَـ 「そして」
/θ/	**[θ]**	**/θamma/ [θamma]** ثَمَّ 「そこ」
/ð/	**[ð]**	**/ðaː/ [ðaː]** ذَا 「これ，それ」
/ðˤ/	**[ðˤ]**	**/ðˤalaːm/ [ðˤɑlɑːm]** ظَلَام 「暗闇」
/s/	**[s]**	**/sa/ [sa]** ..سَـ 「～だろう」(未来)
/z/	**[z]**	**/ziː/ [ziː]** زِي 「衣装」
/sˤ/	**[sˤ]**	**/sˤalaːh/ [sˤɑlɑːh]** صَلَاة 「礼拝」
/ʃ/	**[ʃ]**	**/ʃaːʔa/ [ʃaːʔa/** شَاءَ 「彼は望んだ」
/χ/	**[χ]**	**/χaːl/ [χɑːl]** خَال 「母方のおじ」
/ʁ/	**[ʁ]**	**/ʁad/ [ʁɑd]** غد 「明日，翌日」
/ħ/	**[ħ]**	**/ħam/ [ħɑm]** حَم 「舅」

/ʕ/	[ʕ]	/ʕamm/ [ʕɑmm] عَمّ 「父方のおじ」
/h/	[h]	/hal/ [hal] هَلْ 「～ですか？」
《破擦音》 /dʒ/	[dʒ]	/dʒaːʔa/ [dʒaːʔa] جاء 「彼が来た」
《接近音》 /j/	[j]	/jaː/ [jaː] يَا「～よ」(呼び掛け)
/w/	[w]	/wa/ [wa] وَ 「そして，～と」
《側面接近音》 /l/	[l]	/la/ [la] لَـ 「げに」

《アラビア語エジプト方言の子音音素》

/g/	[g]	/gih/ [geh] جاء 「彼が来た」
/zˤ/	[zˤ]	/zˤaːlim/ [zˤɑːlim] ظَالِم 「暴君」
/ʒ/	[ʒ] 外来語，固有名詞	/ʒinz/ [ʒiˑnz] جِنْز 「ジーンズ」

5.2.3 IPA の子音一覧表による表示

調音点 / 調音	両唇	唇歯	歯	歯茎	後部歯茎	そり舌	硬口蓋	軟口蓋	口蓋垂	咽頭	声門
破裂音	b			t d tˤ dˤ				k g	q		ʔ
鼻音	m			n							
ふるえ音				r							
はじき音											
摩擦音		f	θ ð ðˤ	s z sˤ zˤ	ʃ ʒ				χ ʁ	ħ ʕ	h
側面摩擦音											
接近音							j				
側面接近音				l							

	両唇軟口蓋		歯茎
接近音	w	破擦音	dʒ

（ひとつの欄の中で，左が無声音，右が有声音）

表の中で，太枠内は正則語のみで用いられる子音，網掛け部分はエジプト方言で用いられるが正則語にはない子音である。

5.2.4 子音体系の特徴についての記述

まず，ج **/dʒiːm/** で記される音だが，**[dʒ]** で発音するのは，アラビア半島や湾岸地域で，レヴァントや北アフリカの大部分では**[ʒ]**，エジプトでは（正則語でさえ）**[g]** の発音になる（Brustad et al. 1995: 27）。

次に来る **/a/ /aː/** を後ろ寄りに発音する子音は，強調音（本項で後述）のほか，**/r/**（Brustad et al. 1995: 48）や，**/k/** の強調音と見なされる **/q/**（Brustad et al. 1995: 102）がある。ただし，Gaber（1986: 136）は，カイロの人々が，**/q/** を強調なしで発音するとしている。

/l/ は基本的には前寄り（硬口蓋寄り）だが，強調音が近くに来ると，**/l/** も強調的（後ろ寄り，軟口蓋寄り）になる（Brustad et al. 1995: 104）。ただし，الله **/allaːh/**「アッラー」の **/ll/** は，強調的に発音せねばならないが，**/i/** が先行した場合のみ，**/ll/** を前寄りに発音する[33]（Mitchell 1978: 6, 10）。

なお，アラビア語の子音には有気音はないので，**/t/** や **/k/** を発音する際，気音を伴わずに発音しなければならない（Brustad et al 1995: 13, 100）。

《正則アラビア語とエジプト方言との子音の対応》

正則アラビア語と，アラビア語の各方言の間には，一定の子音対応が見られる。そうした対応の一部は，2.3.2 の方言の地理的区分の項でも紹介したが，ここで，正則アラビア語とエジプト方言との子音対応について説明する。

一口にエジプト方言と言っても，首都カイロ，ナイル上流すなわち上エジプト地域，下エジプトのデルタ地帯，ベドウィンの住む沙漠地帯などの地理的な差異に加え，性差，年齢，教育程度などによる相違が見られる。ここでは，カイロの教育層の話すアラビア語に絞って解説する。

一般に，正則アラビア語とカイロ方言の間には，以下のような子音対応が見られる：

正則語	カイロ方言	単語例（正則語：カイロ方言，の順）
/q/	**/ʔ/**	**/qahwa/** قهوة **:/ʔahwa/**「珈琲」
/θ/	**/t/**	**/θalaːθa/** ثلاثة **:/talaːta/**「3」
	/s/	**/θaqaːfa/** ثقافة **:/saqaːfa/**「文化」
/ð/	**/d/**	**/ðahab/** ذهب **:/dahab/**「金（ゴールド）」
	/z/	**/ðakiː/** ذكي **:/zaki/**「かしこい」
/ðˤ/	**/dˤ/**	**/ðˤuhr/** ظهر **:/dˤuhr/**「昼，正午」
	/zˤ/	**/ðˤanna/** ظنّ **:/zˤann/**「彼は思った」
/dʒ/	**/g/**	**/dʒaːmiʕa/** جامعة **:/gamʕa /**「大学」

図表 5-1
正則語とカイロ方言の子音対応

[33] **/allaːh/** の語頭は，限定辞**/al/** と同じ扱いで，連続ハムザとなる。よって，**/li/**「～に」＋**/allaːh/**「アッラー」＞**/lillaːh/**「アッラーに」のように，語頭の**/a/** が脱落する。そして，この場合，前に**/i/** の母音が来ているので，**/ll/** は強調音にならない。

正則語の歯間摩擦音が，カイロ方言の歯茎破裂音と歯茎摩擦音とに対応しているが，割合としては歯茎破裂音に対応する方が多い。また，エジプト方言話者が正則語を話す場合，その話者の教育程度が高い場合でも，歯間摩擦音を歯茎摩擦音で発音してしまうことがしばしば起こる。

正則語の **/q/** は，カイロ方言において，一律に **/ʔ/** に替わるのではなく，伝統的な語や文化的な語では，**/q/** の音を保つ。上記の **/θ/ : /s/** の対応例の **/saqaːfa/**「文化」という単語もその例である。その他，**/q/** の音の保たれている例を列挙すれば：**/alqurʔaːn/** القرآن「コーラン」，**/alqaːhira/** القاهرة「カイロ」，**/qarja/** قرية「村」，**/mauqif/** موقف「立場」，など。

ちなみに，最後の **/mauqif/** の**/q/** の音を **/ʔ/** に替えて **/mauʔif/**～**/mauʔaf/** とすると，「停留所」という，日常的・具体的な意味を持つ語となる。

《太陽文字》

これは，3.2.4 の「綴りや符号が発音と一致しない例」の項で取り上げたが，ここで，太陽文字とは具体的にどの子音を指すのか説明する。なお，「太陽文字」という用語だが，本項では，文字そのものを指すのではなく，ある子音が，正則語の限定辞 أل **/al/** あるいはエジプト方言の限定辞 **/il/** の後に来たとき，限定辞に含まれる **/l/** の音が，その子音に逆行同化する，そういう性質を持つ子音を指して「太陽文字」と呼ぶ。「文字」という名称であるが，指示対象は子音の音素である。

以下に，正則アラビア語・エジプト方言双方の太陽文字（バツ印を付した音を除く）を表に示す。

- ●太線で囲んであるのが，正則語でのみ用いられる子音。
- ●二重線で囲んだのが，正則語で用いられないエジプト方言の子音。
- ●網掛け部分は，エジプト方言でのみ太陽文字扱いされる子音。
- ●太陽文字と調音点が同じだが，太陽文字に含まれない子音にはバツ印を付す。

調音点 / 調音	歯	歯茎	後部歯茎	硬口蓋	軟口蓋
破裂音		t d tˤ dˤ			k g
鼻音		n			
ふるえ音		r			
摩擦音	θ ð ðˤ	s z sˤ zˤ	ʃ ʒ		
破擦音		~~dʒ~~			
接近音				~~j~~	~~w~~
側面接近音		l			

図表 5-2
太陽文字の分布

限定辞に含まれる **/l/** の音が，その子音に逆行同化するのが太陽文字であるが，伝統的に，**/l/** そのものも太陽文字のひとつに含めている。そうすることにより，正則アラビア語の 28 子音のうち，

14 子音が太陽文字，残る 14 子音がそれ以外の月文字と，きれいに半分ずつに分かれる。

上の表を見てわかるとおり，太陽文字は，**/l/** の調音点とその周囲で調音される子音群である。ただし，**/dʒ/** は同じ歯茎音であるにもかかわらず，太陽文字に含まれていない。これは，**/dʒ/** の音が，セム祖語の**/g/** と対応することに関連する。すなわち，**/dʒ/** は，本来は軟口蓋音であったため，歯茎音とその周辺の音のグループである太陽文字に含まれなかったといえる。

他方，エジプト方言では，その軟口蓋音まで太陽文字の範囲が広がっている。ただし，**/j/ /w/** といった半子音は太陽文字に含まれない。

《声門破裂音の脱落》

語中の切断ハムザが，**/tashiːl al-hamzah/**「ハムザの簡易化」により，長母音に置き換えられる例が正則語でも見られる（例：**/taːriːχ/**＜**/taʔriːχ/**「歴史」，**/muːmin/**＜**/muʔmin/**「敬虔な信者」）が，エジプト方言では，こうした例は，正則語以上に多い（例：**/rɑːs/**＜**/raʔs/**「頭」，**/biːr/**＜**/biʔr/**「井戸」など）。Mitchell（1978: 114-116）は，エジプト方言で，語頭の **/ʔ/** が脱落する条件を，子音に先行される場合と，母音に先行される場合の 2 つに分けて示している。

1) 子音に先行される場合

その語が別の語と対照されたり，強調されたりしていなければ，**/ʔ/** は脱落する。例えば，**/ʃuʁl‿ibnak/**「あなたの息子の仕事」（＜**/ʃuʁl/**「仕事」＋**/ʔibn/**「息子」＋**/ak/**「貴方の」）は，通常，このように，**/ʔibn/** の語頭の声門破裂音が脱落するが，これを，**/ʃuʁlak ʔinta/**「貴方の仕事」[34]と対比させる場合，**/ʃuʁl*e* ʔibnak/**[35]と，語頭の**/ʔ/** が残る(Mitchell 1978: 114)。

/ʔabadan/「絶対に」という語は，そもそも強調の意味合いで用いられる単語なので，語頭の **/ʔ/** が脱落することはない（Mitchell 1978: 115）。

さらに，**/ʕamalt‿eːh/**「貴方は何をしたか？」（＜ **/ʕamalt/**「貴方はした」＋**/ʔeːh/**「何」）は，通常の質問であれば，上のように，**/ʔeːh/** の語頭の声門破裂音を脱落させるが，これが，驚き，憤り，皮肉などの意味合いで発せられた場合には，声門破裂音が残る(Mitchell 1978: 114)。

Mitchell（1978: 115）は，こうした **/ʔ/** の脱落は，教育程度の低い人により頻繁に見られると述べる。そして，教育のある人の発話で語頭の **/ʔ/** が脱落する語を，以下のように示している：

未完了形の 1 人称単数形，命令形，派生形，限定辞 **/ʔil/**，代名詞[36]，親族名詞[37]，指示詞[38]，疑問詞[39]，接続詞 **/ʔinn/**「that」，関係代名詞 **/ʔilli/**，その他 **/ʔism/**「名前」等幾つかの名詞，限定辞 **/ʔil/** がついた際の **/ʔ/** 脱落（**/lijjaːm/** ＜ **/ʔilʔajjaːm/**「**the days**」，

---

[34] ＜**/ʃuʁl/**「仕事」＋**/ak/**「貴方の」＋**/ʔinta/**「貴方（主格。前の **/ak/** を強める）」

[35] **/ʃuʁl*e* ʔibnak/** の ***e*** は，子音の連続を避けるための補助母音。「4.2 アラビア語エジプト方言の音節」を参照。

[36] **/ʔana/**「私」，**/ʔinta/**「貴方」，**/ʔinti/**「貴女」，**/ʔintu/**「あなたたち」，**/ʔiħna/**「私たち」

[37] **/ʔabb/**「父」，**/ʔumm/**「母」，**/ʔibn/**「息子」，**/ʔaχχ/**「兄弟」，**/ʔuχt/**「姉妹」

[38] **/ʔaho/**「～があるよ（男性単数）」，**/ʔahe/**（女性単数），**/ʔahum/**（複数），**/ʔaːdi/**「ほら，～があるよ（性・数の変化なし）」

[39] **/ʔeːh/**「何？」（**/fiːh ʔeːh/**「何があるのか？」という文では **/ʔ/** は省略不可），**/ʔimta/**「いつ？」，**/ʔanhu/**「どれ？」。二重子音の後では **/ʔ/** は脱落しない。例）**/zajj*e* ʔeːh/**「何のように？」，**/ʔadd*e* ʔeːh/**「どのくらい？」

/ʔiʔfaːl[40] **libwaːb/**「扉（複数）の鍵（複数）」< **/ilʔabwaːb/**「**the doors**」, **/lakbar/** < **/ʔilʔakbar/**「**the greatest**」)。

Mitchell (1978: 115)は，以下の場合には，**/ʔ/** が脱落しないと述べている:

・**/ʔ/** の他に子音が 2 つだけ:例） **/ʔizn/**「許可」, **/ʔakl/**「食べ物」, **/ʔagaːza/**「休暇」, 等。

・4 語根名詞の第 1 語根，あるいは動詞の第 1 語根として現れた **/ʔ/**:

例） **/ʔarnab/**「兎（単数）」, **/ʔaraːnib/**「兎（複数）」, **/ʔamar/**「彼は命令した」, 等。

2) 母音に先行される場合

/ʔ/ の次の母音と先行する母音とが同じ場合，片一方の母音とともに**/ʔ/** が脱落する (**VʔV→V**) (Mitchell 1978: 115) : 例） **/ʔinta/**「貴方」+**/ʔaħmar/**「赤い」> **/ʔintaħmar/**「貴方は赤い」

ただし，強調するような文脈では，**/ʔ/** は脱落しない(Mitchell 1978: 116)。

また，**/ʔ/** に続く母音と，違う母音に先立たれる場合，後述する例外以外は，脱落せずに残る。

例） **/ʔismaha ʔeːh/**「彼女の名前は何か？」, **/bijiʕmilu ʔeːh/**「彼らは何をしているのか？」

例外① **/ʔa/** が **/i/** に先行されると，**/i/** が **/ʔ/** とともに脱落 (**iʔa→a**) (Mitchell 1978: 116) :

例） **/bi/**（進行相等）+**/ʔaktib/**「私が書く」> **/baktib/**「私が書いている」

例外② 語頭の **/ʔi/** は，普通の文脈ならば必ず脱落させる(Mitchell 1978: 116) :

例） **/da ʔilli ʔana ʕawzu/** > **/da‿ll‿ana ʕawzu/**「これが私が欲しいものだ」

例外③ **/ʔallaːh/**「アッラー」の語頭の **/ʔa/** で，これは常に脱落する(Mitchell 1978: 116) :

例） **/li/**「～に」+**/ʔallaːh/**「アッラー」>**/lillaːh/**「アッラーに」

Mitchell(1978: 116)は，**/ʔ/** の脱落をさせない発話は，**/ʔ/** を脱落をさせた発話より，正則語的な響きを持つとも述べる。同じ「オーブン（複数）の中で」という句でも，語頭の **/ʔa/** を脱落させない **/fi ʔafraːn/** という発音より，脱落を起こした **/fi‿fraːn/** という発音の方がより口語的である。

《強調音》

アラビア語には，強調音と呼ばれる子音のグループがある。正則アラビア語の **/tˤ/ /dˤ/ /sˤ/ /ðˤ/**, エジプト方言では **/tˤ/ /dˤ/ /sˤ/ /zˤ/** である。これらは，咽頭化音と説明されるが，軟口蓋化音であることもある。中野(2002)は口蓋垂化音と考えている。本稿では，音声学的には不明瞭な名称ではあるが，伝統的かつ現在でも広く使われている「強調音」という名称を用いている。

Younes(1993:123-124)は，カイロ方言の **/r/** は本来は強調音だと考え，以下の条件下で，それが非強調音化されるとしている:

A. 非屈折的な **/i/ /iː/** に隣接している場合。 例） **/imbaːriħ/**「昨日」

B. 非強調音の舌先音[41]の前に来た場合。**/r/** とそのような子音との間に，母音が割り込んでいても同様である。 例） **/dars/**「レッスン」, **/daras/**「彼は勉強した」

---

[40] 正則語の **/ʔaqfaːl/** に対応。Badawi & Hinds (1986: 711) では，**/ʔaʔfaːl/** という発音で掲載されている。

[41] この場合の舌先音には，**/k/, /g/** も含まれる。各々，パレスチナ方言の **/tʃ/, /dʒ/** に対応するので(Younes 1993:123)。

ただし，これは一般的な規則ではなく，例外もある。例） **/raʃʃ/ [rˤɑʃʃ]**「彼は噴霧した」，**/marran/ [mɑrˤrˤɑn]**「彼は訓練した」，**/garas/ [gɑrˤɑs]**「鈴」

C. 同じ語根[42]内の軟口蓋音[43]の前。 例）**/farraʁ/**「彼は空にした」

これらの非強調化の環境を除けば，**/r/ [rˤ]** は後舌の広母音（**[ɑ], [ɑː]** ）と共起する。

また，Younes（1993:124）は，以上のような非強調化の環境以外では，**/rˤ/** を含む諸強調音の強調性が，左方向および／あるいは右方向へ，拡張していく現象が見られると述べる。そうした強調性の拡張は，前舌広母音(**[a], [aː]**)に対する後舌広母音（**[ɑ], [ɑː]** ）の出現に反映される。

カイロ方言での強調性の拡張について，Younes（1993:127-129）は，以下の 2 つの例外を除いては，強調性は，左方向へも右方向へも，同一語内のあらゆる分節へ拡張するとする。

例外 1) 接頭語 **/ma/**（否定辞）や **/ba/**（進行相，習慣相を示す）への拡張には一貫性がない。同じ語を同一人物が発音しても，**[ma]** ～ **[mɑ], [ba]** ～ **[bɑ]** で揺れる。また，受動分詞[44]の語頭の **/ma/** も，**[ma]** ～ **[mɑ]** の揺れが見られる。

例外 2) 半母音 **/j/** は，隣接した強調音化されるべき短い広母音を，前舌音すなわち非強調音にするが，**/j/** に隣接する広母音が長母音の場合は，この限りでない[45]。

最後に，Younes（1993:130）は，語の境界が強調性の拡張を阻止することを指摘している[46]。

《有声音・無声音の同化》

Gaber（1986: 105-106）は，エジプト方言について，自然なスピードで語や文を発音する場合，以下のような逆行同化が起きるとしている:

無声破裂音は，後に有声阻害音（破裂音，摩擦音）が来た場合，有声音となる。

/jitbaʕ/ > [jedbɑʕ]「彼はついていく」

無声摩擦音は，後に有声摩擦音が来た場合，有声音となる。

/jifzaʕ/ > [jevzɑʕ]「彼は驚かす」

無声摩擦音は，後に有声破裂音が来た場合，無声のままか，あるいは有声音になる。

/jisbaħ/ > [jesbɑħ] あるいは **[jezbɑħ]**「彼は泳ぐ」

非阻害音は，後に無声阻害音が来た場合，無声音にも有声音にもどちらにもなりうる。

/jilsaʕ/ > [jelsɑʕ] あるいは **[jel̥sɑʕ]**「彼は焦がす」

---

42 通常，アラビア語の語は 3 つの子音を基に形成される。その 3 子音が「語根」である。例えば，例の **/farraʁ/**「彼は空にした」の語根は **f-r-ʁ** である。

43 正則語の **/q/** に対応する **/ʔ/** も含む。

44 $maC_1C_2uːC_3$ の型。C_1 C_2 C_3 は語根の 3 子音を表す。

45 **/ʃaχsˤi jja/**「個人の（女性単数）」に対して，**/χajjaːtˤ/**「仕立て屋」（下線は強調化部分）

46 ただし，Gaber (1986: 58) は，**/naːm/**（彼は眠った）**/barˤrˤa/**（外で）を続けて発音した場合に，**/naːm barˤrˤa/** と，強調性が拡張する例をあげている。その一方で，**/raːħ/**（彼は行った）**/naːm/**（彼は眠った）を続けて発音した場合は，強調性の拡張は語の境界で阻止され，**/raħnaːm/** となるとしている。

《口蓋化》

[ti], > **[tʲi],** または **[di],** > **[dʲi]** という口蓋化（硬口蓋化）は，様様な言語に起こる現象だ。エジプト方言では，この口蓋化が強まり，**/ti/, /tˤi/** が **[tʃi],** また **/di/, /dˤi/** が **[dʒi]** と，破擦音として発音されるようになりつつある。Haeri（1992）は，通常の口蓋化を「弱い口蓋化」，破擦音化させた発音を「強い口蓋化」と呼び，後者が，どのような条件下で起こりやすいか考察した[47]。

カイロ方言の強い口蓋化（以下，単に「口蓋化」）としては，次のような例が挙げられる：**/inti/**「貴女」>**[entʃi], /di/**「これ（女性単数）」>**[dʒi], /mabsutˤiːn/**>**[mabsotʃiːn]**「嬉しい（複数）」など。

こうした口蓋化は必ず起きるとは限らない。Haeri（1992:172）によれば，歯擦音が後ろに現れる環境では，口蓋化は避けられる。一種の異化だ。**/ħadiːd/**「鉄」の発音には **[ħadiːd]** も **[ħadʒiːd]** もあり得るが，**/ħadiːs/**「預言者の言行」では，後ろに歯擦音 **/s/** があるため，*__[ħadʒiːs]__ の発音は非常に稀だ。同様に，**/maruħtiːʃ/**「貴女は行かなかった」の **/tiː/** も，まず口蓋化しない。

また，口蓋化の起こる率が，語末の短母音 **/i/** の前では 24%に対し，非語末の **/i/** の前では 10%にとどまったが，Haeri（1992:172-174）は，非語末の **/i/** は，語末の **/i/** より弛緩しており，**[i]** より広めの **[e]** に近い音だとして，後続する母音の広さが，口蓋化を生じさせない要因となっているのではないか，とする。さらに，Haeri（1992:174-175）は，強調音（咽頭化音）の **/tˤ/, /dˤ/** が口蓋化された場合，それらが表面上，強調音（咽頭化音）の性質を失うことにも言及している。

参考文献

Badawi, E-S. and Hinds, M. (1986) : *A dictionary of Egyptian Arabic*, Beirut, Librairie du Liban.

Broselow, E., Eid, M. and McCarthy, J. (ed.) (1992) : *Perspectives on Arabic linguistics IV*, Amsterdam / Philadelphia, John Benjamins Publishing Company.

Brustad, K., Al-Batal, M. & Al-Tonsi, A. (1995) : *Alif Baa: Introduction to Arabic Letters and Sounds*, Washington D.C., Georgetown University Press.

Eid, M. and Holes, C. (ed.) (1993) : *Perspectives on Arabic linguistics V*, Amsterdam / Philadelphia, John Benjamins Publishing Company.

Gaber, A. (1986) : *Sounds of Arabic*, Omraniya (Giza), New Offset Printing Shop.

Haeri, N. (1992) : Sychronic Variation in Cairene Arabic: The Case of Palatalization. In Broselow, E., Eid, M. and McCarthy, J. (ed.) *Perspectives on Arabic linguistics IV*, 119-145. Amsterdam / Philadelphia, John Benjamins Publishing Company.

Mitchell, T. F. (1978) : *An Introduction to Egyptian Colloquial Arabic*, Oxford, Clarendon Press.（再版のペーパーバック版。初版は 1956 年）

中野暁雄（2002）：「アフロ・アジア（大）語族の子音構成 －panchronic に見た特質と問題点－」 http://www.aa.tufs.ac.jp/~P_aflang/aflang-web/history/heisei14.7.tokyo-sjis.html#1

Younes, M. (1993) :Emphasis Spread in Two Arabic Dialects. In Eid, M. and Holes, C. (ed.) *Perspectives on Arabic linguistics V*, 119-145. Amsterdam / Philadelphia, John Benjamins Publishing Company.

[47] 口蓋化についての Haeri (1992) の社会言語学的調査については，第 7 節で触れる。

6. アラビア語のプロソディー：アクセント・リズム・イントネーション

6.1 正則アラビア語のプロソディー

6.1.1 正則アラビア語のアクセント

正則アラビア語のアクセントは強さアクセント，すなわち強勢である。アクセントの位置は，音節構造によって自動的によって決まるので，アクセントによる意味の弁別はない。

以下，正則アラビア語の単語におけるアクセントの規則を列挙する。

(1) 語尾に最も近い長音節（CVC 型の音節）にアクセントを置く。ただし，最後の音節が長音節であっても，そこにはアクセントは来ない。

これにより，休止形でアクセントの位置の変わる語がある：

例）**/na.ˈbij.jun/**「預言者」 に対し，休止形は **/ˈna.biː/**（Wright 1967: Vol.1, 27）

(2) 長音節がない場合，あるいは末尾以外にない場合，アクセントはできるだけ前に置かれる。

例）**/ˈqa.sˤa.ba.tun/**「砂糖黍」，**/ˈqa.sˤa.ba.tu.haː/**「彼女の砂糖黍」（Wright 1967: Vol.1, 28）

ただし，連続ハムザは，アクセントを定める音節分析では無視される（池田 1976: 15-16）：

例）**/ʔin.ˈsˤa.ra.fa/**「彼は立ち去った」

（連続ハムザを無視しない場合，*/**ˈʔin.sˤa.ra.fa/** というアクセントになってしまう。）

しかし，連続ハムザを含む音節のほかに，音節が 1 つしかなかった場合は，連続ハムザを無視することはできないと思われる：例） **/ˈʔiq.raʔ/**「読め（男性単数）」

(3) 接続詞，単音節の前置詞，限定辞，名詞等の格語尾の最後の母音にアクセントを置かない。

例）**/li/**「～に」+ **/al/**（限定辞）+ **/waladi/**「少年（属格）」＞**/lil.ˈwa.la.di/**「その少年に」

ただし，Wright (1967: Vol.1, 27) が 2 つの例外：**/ˈbi.ma/, /ˈli.ma/** を挙げる。これらは各々，**/maː/**「何」に前置詞**/bi/**「～によって」，**/li/**「～のため」が付き，かつ**/maː/** の母音が短化した形である。これらを，母音が短化せずアクセントが**/maː/** に残った **/bi.ˈmaː/, /li.ˈmaː/** という形から区別するため，前置詞である**/bi/, /li/** にアクセントを置く。

また，人称代名詞を含んだ句の場合，アクセントが，

/ˈbi.haː/「彼女/それによって」＜**/bi/**「～によって」+ **/haː/**「彼女，それ（対格・属格）」，

/ˈwah.wa/「そして彼は」＜**/wa/**「そして」+ **/ˈhu.wa/**「彼（主格）」

と，前置詞や接続詞に置かれることがある（Mitchell 1990: 128）。語頭が連続ハムザの場合：

/ˈwaq.raʔ/「そして，読め（男性単数）」＜**/wa/**「そして」+ **/ˈʔiq.raʔ/**「読め（男性単数）」

と，連続ハムザを含む音節のアクセントが，そのまま接続詞に移行する（Mitchell 1990: 128）。

/ʔalaː/「～ではないのか?」＜**/ʔa/**「～か?」+ **/laː/**「～ではない」のアクセントの位置については，Wright（1967: Vol.1, 27）は **/ʔaˈlaː/**, Mitchell（1990: 128）は **/ˈʔalaː/** と述べている。

(4) アクセントは末尾から 3 音節目までに来ることが多い。

(1)～(3) の法則から言えば，例えば，**/mak.ta.ba.tun/**「図書館，書店」は，**/ˈmak.ta.ba.tun/** のように，第 1 音節の**/mak/** の部分にアクセントがくるはずだが，Bateson (2003: 8) は，アクセントは末尾から 3 音節目までに来ることが多いので，第 2 音節の**/ta/** にア

クセントが来て，**/mak.ˈta.ba.tun/** というアクセントにもなると述べている[48]。

音節数が多く，かつ長音節がない場合，あるいは末尾以外にない場合のアクセントの位置については，先行研究等でも意見が分かれており，例えば，Wright（1967: Vol.1, 28）は，上述のように，アクセントはできるだけ前に置かれる，としているが，池田（1976: 15）は，全て短音節（CV 型の音節）の語句では，末尾から 3 番目の音節にアクセントが置かれる，とする。

Mitchell（1990: 108-109）は，そうした場合，やはり末尾から 2 番目か 3 番目の音節にアクセントが置かれるとするが，これは「エジプトの慣例に基づく」記述だとの断りがある（p.109）[49]。

ここに，Mitchell（1990: 108-109）の示したアクセントの型を整理して挙げる。なお，CVC，CV はそれぞれアクセントの型を示す。すなわち，CVC には CV**:** も含まれる。アクセントの置かれるとされる音節を太字で示した。

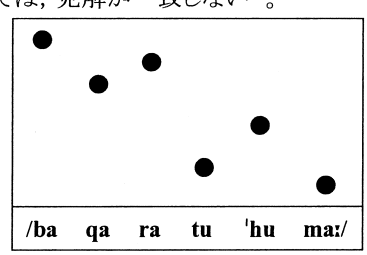
例えば，**/ʃa.dʒa.ra.tun/**「木（a tree）」という語のアクセントがどこにあるかを考えてみると：
Wright（1967: Vol.1, 28）「アクセントはできるだけ前に置かれる」 によれば，/ˈ**ʃa.dʒa.ra.tun/**
池田（1976: 15）「語尾から3番目の音節にアクセントが置かれる」によれば，**/ʃa.ˈdʒa.ra.tun/**
Mitchell（1990: 108）「CV-CV-**CV**-CV（C）」によれば，**/ʃa.dʒa.ˈra.tun/**

				CV-	CV(C)
			CVC-	**CV-**	CV(C)
			CV-	CV-	CV(C)
		CVC-	**CV-**	CV-	CV(C)
		CV-	CV-	**CV-**	CV(C)
	CVC-	CV-	CV-	**CV-**	CV(C)
	CV-	CV-	**CV-**	CV-	CV(C)
CVC-	CV-	CV-	**CV-**	CV-	CV(C)
CV-	CV-	CV-	CV-	**CV-**	CV(C)

図表 5-3 音節パターンで見るアクセントの位置

このように，特に 4 音節以上の語句のアクセントの位置に関しては，見解が一致しない[50]。

なお，アクセントの置かれている音節が，必ずしもピッチが高いとは限らない。例えば，Mitchell（1990: 109）は，**/ba.qa.ra.tu.ˈhu.maː/**「彼ら二人の雌牛」のアクセントを，（上述のとおり，エジプトの慣例に倣って）末尾から 2 音節目に置くとしているが，ピッチに関しては，第 1 音節が最も高く，だんだん下がっていくと説明している。



6.1.2 正則アラビア語のイントネーション

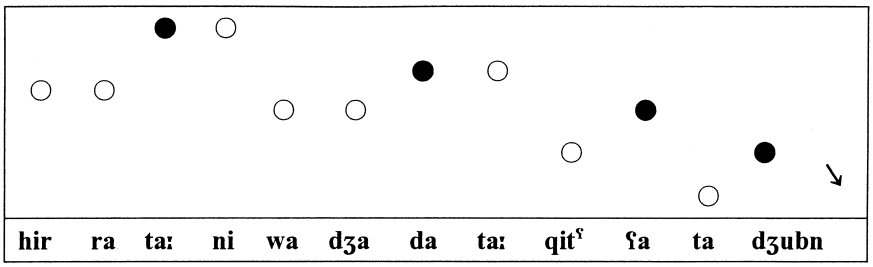
まず，平叙文では，全体としては下がり調子になる。しかし，アクセントのない音節（○で示す）が，アクセントのある音節（●で示す）に対し，ピッチの谷間を作るのが特徴的である（Mitchell 1990: 125）：

---

48 エジプト人のインフォーマントに確認したところ，**[mak.ˈta.ba.tun]** というアクセントの位置でも，正則語のレベル内と感じられるが，**[ˈmak.ta.ba.tun]** と比べた場合には，やや口語的な響きがするとのことであった。

49 Mitchell（1990: 110）が，the Azhari-trained Egyptian's ...「アズハルで訓練を受けたエジプト人の…」という表現を使っていることから，イスラーム最古の最高学府アズハル大学がカイロにあることを考慮して，エジプト式の発音を採用したものと考えられる。

50 地域による差異を認める Mitchell（1990: 109-111）の説明については，第 7 節を参照のこと。

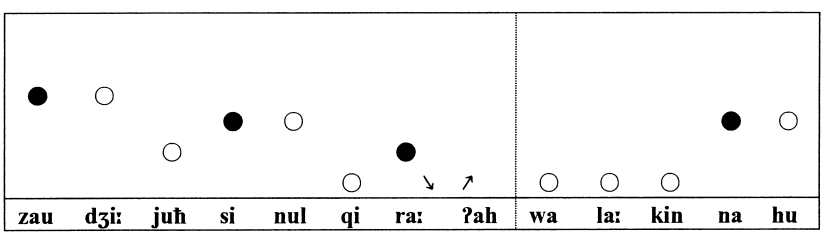


/hir.ra.ˈtaː.ni. wa.dʒa.ˈda.taː. qitˤ.ˈʕa.ta. ˈdʒubn/[51]

「2 匹の猫が一切れのチーズを見つけた」

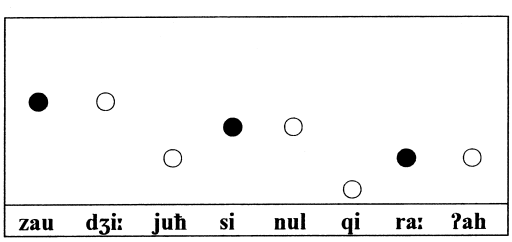
このように，特に強調する部分のない平叙文であれば，アクセントのある，文末にいちばん近い音節が，下がり調子になる(Mitchell 1990: 127)。

逆説の接続詞(**/walaːkinna/** 「しかし」)で次へと文を続ける前など，対比の意味合いを表す場合には，下がり上がりのイントネーションが用いられる(Mitchell 1990: 126-127)：



/ˈzau.dʒiː. juħ.ˈsi.nu‿l.qi.ˈraː.ʔah. wa.laː.kin.ˈna.hu/

「私の夫は良く読めるのです。しかし，彼は･･･」

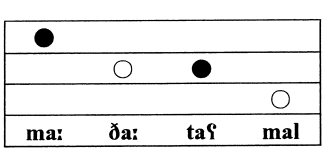


/ˈzau.dʒiː. juħ.ˈsi.nu‿l.qi.ˈraː.ʔah/

「私の夫は良く読めるのです･･･」

あるいは，休止前で，対比の意味合いではなく単に「まだ続きがある」ということを示す場合，ピッチを完全に低くせず，低～中の間くらいの高さで文や節を止める(Mitchell 1990: 127)：

Mitchell(1990: 127)は，アクセントのある，文末に最も近い音節が，Yes-No 疑問文であれば，上がり調子になると述べる。Al-Ani(1970: 92, 94)は，疑問詞を含む疑問文(非 Yes-No 疑問文)について，文頭あるいは文中に，もっとも高いピッチの音節が現れ，その音節以降は下がり調子になるとしている：

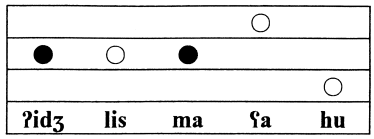


/maː.ðaː. taʕ.mal/

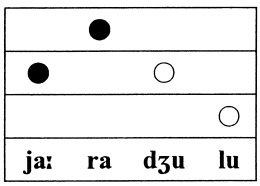
「何をするのか？
(男性単数)」

[51] アクセント位置の決定は Mitchell 1990 による。

命令文では，その命令中で強調したい語のピッチを上げる。強調する語が文頭にあれば，平叙文のように下がり調子になるが，強調する語が文の途中にある場合には，ピッチは山を描く（Al-Ani 1970: 92）：



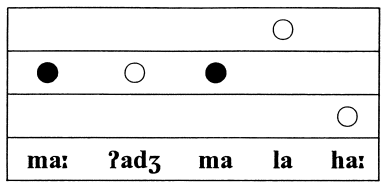
/ʔidʒ.lis. ma.ʕa.hu/
「彼とともに座れ（男性単数）」



/ jaː. ra.dʒu.lu/
「男よ」

呼び掛けのピッチは，平叙文に似るが，より短く構造も限られるので，型に変化がない（Al-Ani 1970: 92）。

感嘆文は，中位のピッチで始め，強調したい語でピッチを上げ，後は下がり調子になる（Al-Ani 1970: 92）。



/maː. ʔadʒ.ma.la.haː/
「彼女は何と美しいのだろう！」

参考文献

Al-Ani, S.H. (1970) : *Arabic Phonology: An acoustical and physiological investigation*, The Hague/Paris, Mouton.

Bateson, M.C. (2003) : *Arabic language handbook*, Washington, D.C., Georgetown University Press.（1967 年刊の再刊）

池田修 (1976) :『アラビア語入門　カセットテープ付』, 東京, 岩波書店.

Mitchell, T. F. (1990) : *Pronouncing Arabic I*, Oxford, Clarendon Press.

Wright, W. (1967) : *A grammar of the Arabic language: translated from the German of Caspari and edited with numerous additions and corrections*, Third edition revised by Smith, W. R. and De Goeje, M. J., Cambridge, Cambridge University Press.（第 1 巻が 1859 年，第 2 巻が 1862 年に初版発行。それらの合冊ペーパーバック版。）

6.2 アラビア語エジプト方言のプロソディー

6.2.1 アラビア語エジプト方言のアクセント

アラビア語エジプト方言のアクセントも強さアクセント，つまり強勢である。

最初に，Stevens & Salib（1992: xvi-xvii）に基づき，エジプト方言のアクセント規則をまとめる：

(1) 一般的に，アクセントは，終わりから 2 番目の音節に置かれる。ただし，単音節の語においては，その音節の母音にアクセントを置く。

例） /ˈ**mak.tab**/「机，事務所」，/**mak.**ˈ**ta.ba**/「図書館，書店」

(2) 最後の音節が長母音を含むか子音連続で終わる場合，最後の音節にアクセントを置く。

例）/ˈ**ha.ram**/「ピラミッド（単数）」，/**ʔah.**ˈ**raːm**/「（複数）」，/**ʔah.ra.**ˈ**maːt**/「（複数の複数）」

(3) 最後の 3 音節が，CVCVCV(C)の形のとき，アクセントは，後ろから 3 番目の音節に来る。

例） /ˈ**ku.ʃa.ri**/「コシャリ（マカロニ・米・レンズ豆等を混ぜトマトソースをかけて食べる料理）

(4) ただし，音節の形が CuCuCa, CiCiCa の場合は例外的に(1)のルールが適用される[52]。

例） **/su.ˈbu.ʕa/**「ライオン(複数)」, **/ku.ˈru.ta/**「カード(複数)」, **/ħi.ˈsˤi.na/**「馬(複数)」

(5) 動詞の完了形 3 人称女性単数語尾 **/it/** ＋非分離人称代名詞　が末尾に来る場合，アクセントは，動詞の語尾部分に置かれる。

例） **/ʃa.ˈfi.tu/**「彼女は彼を見た」＜**/ˈʃaː.fit/**「彼女は見た」＋**/u/**「彼を」,

(6) 例外: **/ʔa.ˈhu/**「あそこに～があるよ(男性形)」, **/ʔa,ˈhi/**「あそこに～があるよ(女性形)」

それぞれ, **/ʔahuwwa/, /ʔahijja/** から来ているため。(**/ˈhuwwa/**「彼」, **/ˈhijja/**「彼女」)

/ja.ˈta.ra/ [jɑˈtɑrɑ]「～かしら」 これは**/ja/** と **/ˈtɑrɑ/** の 2 語から成っているため。

以上のように，アクセントは母音に置くのが原則だが，Gaber(1986: 27)が変わった例を挙げている。命令形の語頭の CV 音節が省かれてしまうことがあるが，省かれた音節の強勢が保たれ，残った子音が長く力をこめて発音されるという: 例） **/ˈʔis.maʕ/**「聞け(男性単数形)」) ＞**/ˈsːmaʕ/**

実際の発話では，出現する各語のアクセントを全て強く発音したりはない。例えば，**/kiˈtaːb/**「本」と **/faˈriːd/**「ファリード(男性名)」を続けると，**/kitab faˈriːd/**「ファリードの本」のように，句末の長母音にアクセントが置かれると同時に，アクセントの失った長母音が短化する(Mitchell 1978: 13)。

逆に，文中のどの語を強く発音するということがない場合もある。Harrell (1957: 18-19)は,

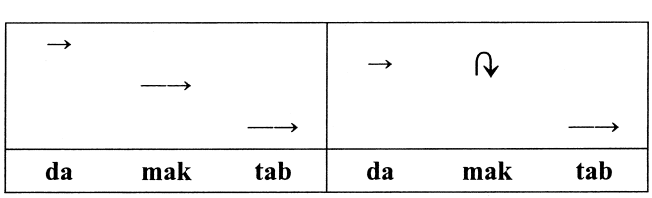
例） **/ʔid.ˈdiː.ni ʃ.ˈwaj.jit. ˈmɑj.ja./**「私に少しの水をくれ」

という文について，特にどの語を強く発音するわけでもないとしつつ，最初の，**/ʔid.ˈdiː.ni/** に文のアクセントを置くことは可能だという。その場合でも，単に命令を強めるだけである。もし英語で "Give me a liitle water."の Give を強く発音すれば，「売るのではなく，くれ」という対比的意味合いが出るが，エジプト方言ではそのような意味合いの変化はない。

なお，アクセントの置かれている音節が，必ずしもピッチが高いとは限らない。これについては，次項のイントネーションについての説明を参照のこと。

6.2.2 アラビア語エジプト方言のイントネーション

まず，平叙文では，全体的に下がり調子になる。アクセントのある音節が，わずかに上がって下がることもある(Gaber 1986: 31)。



/da ˈmak.tab /「これは机です」 の 2 通りのアクセント

[52] これらの語では，本来は長母音だった母音に，アクセントが置かれている。

末尾に **/walla/**「or」や **/walla laʔ/**「or not」を付けた場合は，**/walla/** 以降が下がり調子になる（Mitchell 1978: 49-50）。

↗	→	→	↷	↘
geh	**wal**	**la**	**lis**	**sa**

/ˈgeh wal.la ˈlis.sa/

「彼は来たか？それともまだ（来ない）か？」

↗ →	↗ → ↗
da k ta:b	**da mak ta:b**

/da‿k.ˈta:b/ 「これは本ですか？」

/da ˈmak.tab/ 「これは机ですか？」

疑問文では，文末の音節のピッチを上げる。もし，その文末の音節にアクセントがなければ，ピッチはより高くなり，また，長さも顕著に長くなる（Gaber 1986: 30-31）。

→ ↷ → ↷↘	→ ↷ → →
bi tiʕ mil e:h	**bi tiʕ mil e:h**

/bi.ˈtiʕ.mil ˈe:h/ 「あなたは何をしているのか？」の 2 通りのアクセント

疑問詞を含む疑問文は，通常，下がり調子だが，しばしば，末尾の疑問詞を，平坦な調子で，先行する語より高めのピッチで発音することがある（Mitchell 1978: 52）：

↘ →	→ → ↷↘
na: mu	**ka sa fu:h**

/ˈna:.mu/ 「彼らは眠った」

/ka.sa.ˈfu:h/ 「彼らは彼を恥ずかしがらせた」

Gaber（1986: 29）は，アクセントの置かれる音節は，やや高めのピッチで発音されるのが普通ではあるが，，実際の個々のピッチは，他のアクセントのない音節との関係により異なることを指摘している。**/ˈna:.mu/** の例では，語末の CV という音節は，非常に低いピッチで発音されるので，2 音節間ピッチの差は明らかだ。他方，**/ka.sa.ˈfu:h/** では，末尾の CV:C のピッチが，前の 2 音節より高くなることはない。

さらに，Gaber（1986: 26）は，アクセントのある音節は，ない音節より，母音が長めに発音されるが，他方，アクセントを持たない音節が，皆同じピッチや長さで発音されるわけではない。**/ka.ta.ˈbi.tu/**「彼女はそれを書いた」の例を挙げる。この場合，通常，第 2 音節が第 1 音節より高ピッチで発音され，末尾の音節はそれらより低いピッチで発音される。

ただし，Gaber（1986: 26-27）は，こうしたバリエーションは一貫したものではないし，弁別的な区別でもないと述べている。

→	→	→	→
ka	**ta**	**bi**	**tu**

/ka.ta.ˈbi.tu/

「彼女はそれを書いた」

参考文献

Gaber, A. (1986) : *Sounds of Arabic*, Omraniya (Giza), New Offset Printing Shop.

Harrell, R. S. (1957) : *The phonology of colloquial Egyptian Arabic*, New York, American Council of Learned Societies.

Mitchell, T. F. (1978) : *An Introduction to Egyptian Colloquial Arabic*, Oxford, Clarendon Press. (再版のペーパーバック版。初版は 1956 年)

Stevens, V. and Salib, M. (1992) : *A pocket dictionary of the Spoken Arabic of Cairo: English-Arabic: Second Edition*, Cairo, The American University in Cairo Press.

7. アラビア語音声の多様性

本節では，アラビア語の音声の多様性を示す具体例をいくつか取り上げる。

《 /a/ の異音》

5.1.2～4 でも触れたとおり，**/a/** と **/aː/** の異音には，前舌音 **[a] [aː]** と後舌音 **[ɑ] [ɑː]** があるが，これには，音声的な環境による使い分けだけでなく，地域による差異も存在する。

Mitchell (1978:10) によれば，**/χaːf/**「彼は恐れた」の母音 **/aː/** は，上エジプト(ナイル川上流地域)方言では通常後舌の **[ɑː]** だが，カイロ方言では前舌の **[aː]** だ。**/madrasa/**「学校」も，カイロでは **[madrasa]** だが，デルタ地方の一部では**[mɑdˤrˤɑsˤɑ]** と強調音と後舌母音で発音される。

アラブ世界全体を見れば，5.1.4 で既述のとおり，**/aː/** は，湾岸地域(サウジアラビア，クウェート，イラク，その他近隣諸国)では，後ろ寄りに **[ɑː]** で発音されるが，地中海地域では，前寄り **[aː]** で発音される(Brustad et al. 1995: 8)。

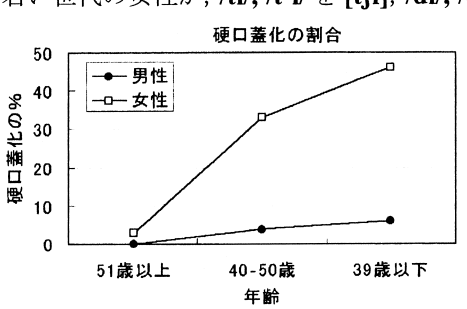
また，口語でも，より正則語的レベルの発音では後舌音が使われるとして，Mitchell (1978: 10) は右のような例を挙げている。参考までに口語的発音を補って示す。

発音のレベル		正則語的	口語的
/ʔaːl/	「彼が言った」	**[ʔɑːl]**	**[ʔaːl]**
/ʁaːyib/	「欠席の」	**[ʁɑːyeb]**	**[ʁaːyeb]**
/xaːl/	「(母方の)おじ」	**[xɑːlˤ]**	**[xaːl]**
/fiːraːn/	「鼠(複数)」	**[fiːrˤɑːn]**	**[feraːn]**

図表 7-1 口語で用いられる後舌母音の発音

《口蓋化》

[ti], [tˤi] > [tʲi], [di], [dˤi] > [dʲi] という口蓋化は一般的現象だが，これが強まり，最近，特に，若い世代の女性が，**/ti/, /tˤi/** を **[tʃi]**, **/di/, /dˤi/** を **[dʒi]** と，破擦音で発音している。



図表 7-2 カイロにおける「強い口蓋化」

Haeri (1992: 177) による

こうした「強い口蓋化」について，Haeri (1992)が，1988 年，カイロで，性別・年齢別調査を行なった。その結果が，左のグラフだ。

Haeri(1992)は，**/tʃi/, /dʒi/** という口蓋化に関する言及が，最近まで殆どなかったこと，及び，強い口蓋化音を発音する年齢層の分布の 2 点を根拠に，この種の発音は，1920～30 年代に出現した新しい現象だろうと指摘する。そのような新しい，だが非正則語的な発音を，女性の方がより積極的に取り

入れていることが，この結果から伺われる。

《正則語のアクセント》

Gaber（1986: 22-23）は，教育のある話者が正則語を話す場合，発音のあらゆる面で口語レベルの発音を引きずってしまうが，アクセントもその例外ではない，と述べ，次の例を挙げている。

エジプト人が正則語を話した場合，2 つ以上の長母音を持つ語では，どの長母音にアクセントを置いても許容される。つまり，/**ˈqaː.nuːn**/「法律」は，/**qaː.ˈnuːn**/ と発音されても良い。さらに，アクセントを持たない，前の母音が短くなって，/**qa.ˈnuːn**/ となることさえある。この母音の短化は，エジプト方言のアクセント規則を満たす方向への変化と言える。

Mitchell（1990: 109）も，やはり，地域の方言が，正則語のアクセントに反映するとする。CVC-CV-CV(C)型の語句のアクセントが，2 番目の音節に来るのは，エジプト以外のアラブ地域でも見られる現象であるが，ヨルダン，パレスチナ地域では，末尾から 3 番目にアクセントが来るのが普通であり，実際，統計的な頻度も多いので，違いが目立って感じられるという。アクセントの地域差の例として，Mitchell（1990: 109-110）は，/**katabataː**/「彼女達 2 人は書いた」のアクセント位置の相違を示している。

/ka.ta.ba.ˈtaː/	レバノン
/ka.ta.ˈba.taː/	カイロ
/ka.ˈta.ba.taː/	ヨルダン，パレスチナ
/ˈka.ta.ba.taː/	上エジプト

図表 7-3

方言によるアクセント位置の相違

参考文献

Broselow, E., Eid, M. and McCarthy, J. (ed.) (1992) : *Perspectives on Arabic linguistics IV*, Amsterdam / Philadelphia, John Benjamins Publishing Company.

Haeri, N. (1992) : Sychronic Variation in Cairene Arabic: The Case of Palatalization. In Broselow, E., Eid, M. and McCarthy, J. (ed.) *Perspectives on Arabic linguistics IV*, 119-145. Amsterdam / Philadelphia, John Benjamins Publishing Company.

Gaber, A. (1986) : *Sounds of Arabic*, Omraniya (Giza), New Offset Printing Shop.

Mitchell, T. F. (1978) : *An Introduction to Egyptian Colloquial Arabic*, Oxford, Clarendon Press.（再版のペーパーバック版。初版は 1956 年）

-----. (1990) : *Pronouncing Arabic I*, Oxford, Clarendon Press.